

B

13

M.24. 11.21
~ 12.28

(31日付記付)
M.25. 1.01~04
(~0.8.09.以下付)

以下2月中3月中...と要約
卒業の事

うきよたひ

13.

24. 11. 21

~ 12. 28

以下31日迄迄7日

25. 1. 01

~ 04. -- 08. 09

以下2月中. 3月中

卒業の前後.

Copyright 日本建築学会

府県

校長・館長・図書主任他職名

申
込
年
月
日

取扱い部別

送本日付 金額 入金日付 金額 摘要 書

昭和二十四年
浮世の張巻之十三

★
組合者欄氏名
住所

明治二十四年十一月二十一日(土) 大.
早朝ヨリ文部省へ出張久松義典ノ指導ニヨリ
陸奥氏宅ノ設計ヲ作ル余ハ本館家屋ヲ作ル
ノ中殆ハ此ノ周廻甚シ正午暮ルヨリ直ニ西
ノ原ヘ赴キニ時大臣、夫人、声部等計八名
至リ此地見ケルス大臣性果シ大ニ趣味有
リ改良セリ夫レヨリ地々往テアリ日暮家ニ帰
リ食料ヲ得テ了ラフ不在ナリ式ヲ了ラフ不在
リ固村ヲ訪フ不在ナリ即ハハ早歸来リハ赴
キ氏太夫及大史共ニ大ニ圓クニ遊ビハシ
後スラトニ立テ寫リ留セシテ夜ニ終リ

二十二日(日)?

天大ニ雨スル余ハ九時迄遊クルマラ舊跡ニ
アリ午暮ハ全ク空ク遊ビ午暮又文部省へ
赴キ着レバ取リテ休ム、故ニ以テ
用ヲ辨セズ空ク家ニ帰ル神谷来リ訪ニ大
聲話シウ此ノ後ハ何カ事ス次ニ固村
張彦氏来リ大ニ面白シ余ハ午暮又遊
ス氏大ニ賛美ス九時去ルハ池井村
ニテ中ノ表裏兩人来リ訪ス十時迄ハ兩人
去ル雨天、ガガ寒シク暮ラス空ク遊ビ

事ハ十二時臺に就キ夜半地大ニ震リ余
驚キ起リ臺に在リ濃尾ニノ舞ノ兆アリ
乎!

二十三日(月) 大祭日ナ

午前図書館へ立寄リ午後西ノ原へ
赴キカントセニ大雨ノ為ニ果カス着任ニ往ル
又日暮中山乗リ田中へノ婚烟退トノ礼物
ヲ件ニ就キ送リ又徳山岡トニ日石奔走
周旋シテ終ニ習慮ヲ贈ルコトニ決定セリ
ト云フ九時中山ト会テ出テ豊岡迄ニ到リ
大ニ喧騒ス彼レ中ノ奇オアリ余深ニ解リ
愛セリ十時在豊岡ニ在リ余別宅ニ在リ
就キ雨ヲホシ沛然ノ

コト田中井ヨリ木炭一升ヲ匠ノ榊實ニ
ナカフ知人ニ

二十四日(火)。

午前西ヶ原へ赴キ午時ヨリ警校操園ニトリカ
ル。全実隊ノ回ヲ觀スルコトガ始メタリハ
非常ニ肥ハ痛ム。日暮迄家等知テ操場
へ赴キニ傍聴ニ附座セラレ空ニテ帰途沈
キスタト客酒ヲヤリ寄席金ヲ三四金ニ懸
一場ノ演習ヲナス終リテ(裝飾真相)山田
ヲ召シ久シブリテ顔ヲ合セテ十一時迄ヲ學
ニ留リ寢ニ就ク

二十五日(水)。

午前操園視察ニ付新方ニ山形ヲ出身
學士等々金ノ發起人ニナリタルヲ云フ余之
ヲ觀ス午時西ヶ原へ赴キ日暮ノ時
平田へ赴キ貴族院傍聴毒ヲ件ル
ニイタル件ヲ讀ミ却テ江ノ丸
訪フニ不在ナリ即ハ家ニ歸リ再ヒ買ヒ物
ニ出掛リ却テスタトニ飲ニ更ニイロハ
ニ飲ミ終ニ酔フテ家ニ歸リ寢ニ就ク

二十六日(木) 丁

正午マ製同午ナリ西ノ原ヘ赴キ日暮
内村ヲ訪フ内政ニ以テ腹大ニテ飲酒
エ、狸ニ似タリ来年正月次ナラン事家ニ
別リ夜食ノ後車田ヲ訪ヒ江原ヲ訪フ江
原酒肴ヲ用ヘテ待テリ快哉矣後十
時ニ至リ余大醉ニテ家ニ別リ寝テリ

二十七日(金) 戊

午蒙登校、午杜西ノ原リ、日暮地寄抵
家ニ赴キ由達家寄知ニ臨ミ傍聴者雲
霧必ニ展覧、久高、宮限、江合、諸氏什人
近ノ霍更ノ朝先ナルヲ官ニ候問付後等
之ヲ要スルニモ享欲スヘキ事理ハナ
レナリ則チ余ハ山下ニ歩キ、手野苑ニ
飲食シ十ニ時家ニ別リ寝テリ

二十八日(土) 丁

午前至校午後雨原止ミ三時山田監元
35分共ニ路禁可松葉山田原全室分ニ脱出
余ハモ、松中、松末、二學士ハ十時名、學士
ナリ山田、伊東、佐藤、水原、佐藤、祝、高橋、
山崎、原中、岡根、小川、ナリナリ女ソハ雖
禮ハるニ飲食ニ終リハ侃々ハ大論ナリ
九時余等余ハ山田ト更ニ本郷、豊田、祝ハ
余即ハ大酒解ヒ十時余ニ抱リ寝テ就ク

二十九日(日)

午前至校午後雨原止ミ日暮内村実陽ヲ
訪フ共ニ佳ハス余ハハハ神谷ハ知氏来訪
し居テ完品来訪ニ三人共ニ本御景中ニ赴
キ久シブナリ致大丈引爾ハ浅大丈、日暮ハ
九十五点ナリ理大丈ハ八百点、殿 百点ナリ
理大丈ハ420点、妙ヲ得一陽、洗人眼
前ニアリト見ニ其情緒、綿々タル一ハ嘲ニハ
快氣、訪リカ極ナリ十時归ル完品一五余ヲ
訪ヒ用テヌル一トナリ十一時去ハ十二時余復
ニ就ク

三十日(月)木

午前三浦倉女屋敷へ参校 午は西ノ原へ
赴ト四時半ヲ罷シ 蓮家等正安命・既
4原野氏命長余ハ画工トシテ役ヲセリ出所
正員二十名ニ交リ所滞概ニ半ニ月ニ付士ハ
云ハ人ノ滞滞トシテ取以水ノ滞ニ果シ
十々時開所又余ハ旧道中ノ野原シテ
牛肉ノ飯トシテ食ハ膳ヲ作リ十二時
零止罷リ寝シ (明日ヲ以テ、兩人第ニハ滞ハ
居ル難キ事ニ概ニ人深ク余ハ其ノ意ハ)

十一月一日(火)土

例如。午参校 午は西ノ原ヲ四時半
迄ニ参校 既ニ今日ハ青木周造氏命長ト
氏政造ヲ整理ス 田也氏ト片山氏ト、其ハ大
争端中ニ面白シ十時開所 余ハ伊古路
次ト共ニ余金ニ付テ食セ酒ヲ飲ムトナリ
是ニ即チ去テ連署所、余金ヲ訪ヒ久シク
料飲ヲ食ヒ酒ヲ飲ム興甚長、余沈睡
シテ既ト参校ヲ辨ス 標ヲ去ルハ、何時
ナリヲ知ラス

二日(水)大.

朝起時出、火へ暖む。大膳、猿果に、鼻頭、大に
傷、後、カ余、深、白、耻、カ、大、症、カ、午、前、登、校
製、同、午、後、西、ノ、原、へ、包、キ、来、テ、又、即、書、ミ、久、島、君、進
ヒ、大、テ、汽、流、ス、心、ヲ、ア、リ、再、ヒ、登、校、日、暮、テ、製、同、ス、更、ニ
余、ヲ、ア、リ、包、ハ、去、ル、其、日、師、来、セ、由、解、ハ、東、坂、地、方
マ、リ、近、厩、ニ、カ、ル、由、来、知、リ、珍、況、多、ク、傳、ヘ、リ、汽、流、喚
甚、暖、ク、二、人、ノ、珍、外、出、シ、是、ヲ、書、キ、送、テ、コ、ー、テ、
飲、ミ、来、リ、談、事、所、於、中、ニ、テ、飲、ミ、更、ニ、上、野、公
園、ヲ、歩、シ、十、二、時、家、ニ、リ、テ、寢、ミ、就、

三日(木)大.

午、前、例、如、シ、登、校、製、同、ス、午、後、西、ノ、原、へ、赴、
キ、日、陰、更、丈、人、見、ヘ、リ、四、時、派、飯、持、来、リ、就、
込、家、来、ル、臥、シ、位、々、本、島、到、氏、命、長、リ、コ、ノ、人
ヨ、ク、物、カ、ラ、又、人、ヲ、帝、前、ニ、送、リ、而、由、カ、ニ、
片、山、ノ、嚙、食、人、ヲ、ミ、テ、果、シ、ル、ミ、ノ、十、時、同、分
余、ト、山、ト、石、井、ト、相、傳、テ、女、御、ノ、由、リ、上、ノ、酒
ト、飯、ト、命、シ、十、二、時、家、ニ、リ、テ、寢、ミ、就、

三浦庵ノ女房来リテ酒代ヲカス、去、

四日(金)?

忘れり

五日(土) 木

朝雨 午は雨 晴し 大風起る 日暮 授けの爆
ハ兄 帰宅し 夕食 後 地蔵 寺 へ 赴く
夜 家 へ 正 夜 へ 歸る 十 時 半 家 へ 歸る 兄
一 酌 三 杯 後 寝 山 田 鈴 代 来る

十日(木) 9.

午前登校午後面々原り、校舎=氏、三男ト逢つ氏
ハ工中登校は陸上遊戯に到着、交つてつて
我友に別スル所アソビ也 日暮寒島にうつろ
杜より家へ帰り足、倦れに愛々々長き部、何
剛正に之を携へて足つて中原東の左に酒を
飲み已に中原去る國元の少島、蘭、エリ達、
華東ルツノ一部ヲ用キテ之を愛観スまじり足
トステルニ赴キビルに傾ケナ一時間家へ
帰りナ一時間遊戯シ

十一日(金) ?

午前校舎より神治、末共登校余ハ得、案内
に校舎内より再々富嶺生屋崎まで御来り能
ニ浮船、有ハ本船、蓋ノ新調、御スナ一時間
去ル昼食後休息、著作ニ従ひ、事テ面ヲ作り
浴後夕食、浴へ一ツ括通リ、浴家等々
原ハ十時毎去り山下、社家ト家へ帰り十
一時ニ返リ即ハ日記ヲ思ハナド十一時迄
ニ就キリ

十四日(月) 大.

午時登校 午後雨多原日暮送家母分。原
山十時開年余。神谷和淑トト人牛
た。少飲シ十二時家切リ寝シタリ

十五日(火)

午時田島崎送氏来。共登校豊国。中
食シ午後其西ノ原へ赴。田島余。其等有
益ナリ注意ヲ与。共ニ家ニリヨリ夕食ヌ小
午時即来所五時田島ニ送家母分ニ
随。其子相替ヌ。ソマラス十時開年
神谷ト往寄家。切リ空膳。堪ユベカラス強
寝シタリ。十二時ナリ

十六日(水) 七

午前学校午後西ヶ原リ日暮ヨリ鉄尾河、
送客乗船、赴ク十時哉、伊奈ト全リ相違
ニ就リ例ノ通り空腹堪ニベコス即ハ
中金ニ就ヒ入リテ柿川ト牛肉デ一盃チカ
微睡ニナラ家ニ归リ寝、其ノ片ニ午後十二
時ナラトス今リ午船本民来ル完島等
順モ亦来ル

十七日(木) 七

午前お茶屋以即民来ル氏ハ之雄飛カ養父ナ
陸奥路到リテ来ル午後西ヶ原行日暮例ノ
如ク送客乗船、赴ク一預分今夕ノ以テ後
リ余ハ一重受下セシカ如クハ地ニ附安民ト
ソバ飯ニ就ミ午ニ時来リ归リ寝、其ノ余カ毎日
深夜ニ及ヒテ归ル兄セ母弟高カニ親ヘリ因テ
足君トカレテワ連夜出遊ニ至カ此スナト余笑
フ事ヘス

十九日(土) 9.

午前登坂中北西原日暮足上登り若井へ赴き
 後之助の南へ入る後之助の足が7里半
 組の嶺へ上登り

曇ハ	国光節	45
音文(三)	志原寺	70
小澤	加々見山(又助山)	60
約之助	中將経	80
小保(大)	文助	85
後之助(大)	文代助	95

此方本戸四銭、安住ノ也ト知ルヘシ御金足
 行方松身ノミ、小島ノ置桶又喫、栗ノ大
 飲ニ大、解ツ家ノ御、時、十二時中

十八日(金) 9.

午前早ク路ヲ分ル久留ミノ宿ニ至ル午前八時
 花ノ道ニ出テ即チ登坂聚團ヲシ中絶文部
 省ニ赴キ久留ミノ宿ニ往ル耳痛ヲ四時始メ
 日暮ヨリ宿舎果リ疲レ馬車ノ早市ニ赴キ大に
 少ク御座ルハ、飲食ニ快活シカレテ御座
 既ニ宿上ニ着キテコトニ飲ム山下尋常ヲ流
 リ後之助ノ手頃ニシテ十二時中家ノ御、十
 時中

二十日(月) 七.

昨夜ノ痛飲後、今朝ハ十時頃ハマデ熟
睡セリ、新夕ノ後ニテ正午ナリ、昼飯ス、今日ハ
時ヨリ有馬、通新、出所セバ、ト思、内
用、お灸、久シグ、来所セリ、珍シケル、色ハ霞
ノ如キ、茶、蓮、供ニテ、時ヲ、後ニ、隣ニ、お伊、上
野、根、岸、也、新、前、如、通、皇、國、ハ、夕、飯、リ
喫、ミ、ま、い、リ、田、村、ト、其、二、果、井、ノ、後、之、助、ノ、園、ノ

吾女	寛原	75
小塚	合郎	56
勝次郎	政彦	80
十位	加見山(西)	82
徳助	計三石	98

久シ旅リ、ミ、チ、石、者、鈍、好、巧、精、魂、飛、白、魂、
身、ノ、後、之、助、モ、亦、エ、ト、哉、明、途、マ、ト、ラ、訪、ル、ニ、
ニ、開、院、セリ、新、ハ、青、木、者、ヒ、ニ、ト、コ、ノ、キ、ト、
假、ル、ケ、家、ノ、内、リ、テ、後、ニ、就、リ、コ、レ、リ、支、キ、足、リ、
フ、是、ハ、今、日、臣、等、繁、親、命、ニ、ハ、物、圖、ハ、終、ニ、
沈、睡、シ、テ、ア、リ、タ、リ、夜、半、夜、暖、ニ、テ、夢、濃、ナリ、
神、身、爽、快、ス、ベ、カ、リ、直、ニ、熟、眠、シ、
朝、ニ、乃、ツ

二十一日(月) 九.

午時至坂 午時中村豊太郎氏田君、華佛の寺
へつる、山下不井ト其の芝原月町ニ赴テ行
キテ訪フニ系刺ヲ出スベキヲ又其所ノ後
ニ正七位中村氏親族中一ノコト等ニ周旋スル
人ナキ乎 午時二時出揃 吾等生情然トテ道ニ
從テ徒歩シ姓女之、次ク嫁女中ヲステ願ハ
シテ居ル其状甚々悲シ余ハ不井ト車カテ其地ニ
至ラント山下姓突急慌叫テ曰ク今車行セバ
僕等キヲ如何ト云ハ慌テ徒歩シ華列ニ逢テ
周章張惶逃ル其状頗ル惨ハバシ永田町
ニ至ル位ニ余從テ後ハ一ニ町 山下不井ト
佛地車ノ雇ヲ馳走ス余亦リ残キ、其甚々
安カズ即チ矢針ヲ暫シテ命断ヲ止メ中村
弘一ヲ訪フ不在ナリ去テ直水ノ訪フ亦不在
ク家ノ内ノ流シテ後夕飯ヲ食ヒ其庄五郎
氏車馬ヲ貸シ二時召ニテ別ル女時中余
田中ヲ訪フ田中置酒ニ九時中山氏來テ
十時余ト中山ト其伴ヲ田中ノ屋ニ中山會
テ訪フ用事無ク其ノ後テ余ノ不
在中屋燈亮ニ別ナリ、其ノ訪ニ余ハ三
文也、女若ク残ニキテ一盞ノ土籠地

？不知何有！到スル所ハ必意金員！多
俸ニハアラスヤ。？

大
二十二日(月) 下

午前例如ク登校午後西ノ原ヘ赴ク日暮
昨夜！約ク踊ニテ舞ス所？不在ナリ因テ
神楽ヲ行フ所々不在ナリ因テ足ヲ踏キ綾
之助ナリ！動かシ舞末ノ趣セズ内村達ハ是レ
身ヲ示ス山岡月松氏來居ス四人！酒
豪多集リ！一宴ヲ張ル希佳ナラス！
最ニ珍ナリ！至客共ニ酔テ尽シ！十時ノ
刻ス内村余ヲ誘ヒ餅ヲ食フ彼ヤガ去
ル十一時由余獨リ寝テ就カシ

余爾今夜兄ト余！一身ノ方針ニ就テ
廻テ之ニ就テ！受角洋カハ必當ナリ
カ！洋リカ哉！洋行ナニ哉！

二十三日(水) 七.

午前登校 午後雨(原力) 夜宿場来り即
ハ4時ニ夜宿場へ赴く

後之助 菅原 95.

帰宅見(病)母已ニ臥セリ 雨途多島ト
ソバ店へ入り小飲シテ 雨ノ意ハ
ツレツ 矢キ式所来り

二十四日(木) 七.

午前手田力金巻目、清田、式所ヲ
辰野村ニ母ノ葬儀ニ参ルニ出ル 式已
ニ外出セリ 即ハ4時ニ夜宿場へ辰野
村ニ病ニ相木村ノ墓地へ往行ニ日暮
下條ノ病ニ珍書ニ巻テ得テ家ニ归ル
山岡、中山、梅井ニ氏来訪次ニ奥水 御供
来ル 御供ハ明日宿スルナリ。寒云ハ余
ハ足ヲ病ニ少シ 飲シテ家ニ归リ 腹ニ就リ

夫レヨリ四人御座ニ就キ本御ノ青木也、休
息ニ山田ニ逢フ山田大ニ喜ビ極ニ切實ニ
ノ鳥又ニ登リ大ニ飲ム山田余ヲ信ス
厚ク金、為ニ處セ、方畧等ヲ受テ極メ
テ親切ニ席ニ女ヲ極メテ愛嬌アリ金等
重ク興入リ極ニ大醉ニテ家ニ歸リ山田
ト全餐ス

廿七日(月) 丁

午時登校山田為ニ接見ス方ニテ裁可
依頼セシ、甲斐ニ次、那珂ヲ方ニ午時
リ而テ有リ来リ一返リ帰宅ニテ既ニ有ル
意年等ニ極ニ大ニ興カ足義大ニマシテ其
困ルカ已ヲ得スニテ其時皆ノウナルソノ他色々
ナリ声アリ酒等ヲ金等ハ教令直ニ山田
ヲ再ニ見、何ニ更ニ飲ム来リ山田ト青
木也、又ニ飲ニ家ニリリ寝、此日全
酒等、師ヲ飲ニ金、大醉セリ山田ト全餐
リ

二十九日 (女)

三十日 (女)

31-0 (1)

明治三十五年一月一日 (金) T

今日ヨリ何カ仕事セント、野心的アツキハ余ハ
外出ニセズ十時マテハ舊跡イリ中原、金は
去左柳ノ兩人来訪大ニ飲ニ午は一時ニ
及ツ山下後次郎来リ三時マテ飲ハ日暮ノ
頃岡村来リ又大ニ飲ハ暮暮等来参
リハレオレガシ 豫曲等数々ニアハレ
余ハ大醉シテ十時ニ寝セリ

二日(土) 木

今日ハ外出3時ニシテ又ツ小覚、茂、古市
等ヲ訪ヒ見3時トテ昼飯3時ニシテ又ツ
角正道3時トテ又ツ田中、津見、山岡、
中山ヲ訪フ中山、又ツ酒ヲ飲ミ日暮迄
又ツ茗茶、飲木、落付主ト内朝3時
井ニ向キ2行ク十時迄又ツ又ツ又ツ
大ニ飲木、連中、かた3時ハシテ膳ヲ
又ツ昨日ノ餘酒ヲグセ付テ又ツ又ツ

三日(日) T

早朝の炭火、湯井來ル由テ酒ヲ置、二人モト
大酒ナリ大ニ飲、湯永軍長向來、又飲、
テ二時ニ成、三時迄ヨリ那珂來リ更に大
飲、余馳走スル所アリ日暮ノ後余足見
ル中山ノ湯井又來リ又飲、ナガテ足ト余
ト那珂ヲ行、那珂大ニ馳走ス、足ト余
ト泉系飲、飲、飲、飲、終ニ至炭火、
十二時迄アリ

11月 不

霜降、寒味大に付、九時中山、
山岡来り、其に今日、田中、中電、
湯引、等、廻向、誠、に、終、二時、
午後、電、湯、引、等、二時、田中、中電、
大内、(今夜、新、焼、肉、同、ヒ、タ)、
中山、山岡、中電、江、島、佐、賀、
人、十、一、全、非、常、快、楽、に、
打、テ、舞、ハ、酒、宴、際、湯、引、等、
起、テ、舞、ハ、吹、テ、山、岡、江、島、
我、夫、其、モ、佳、レ、大、内、
ヨ、中、電、湯、引、等、
無、事、ハ、中山、田中、
何、モ、道、化、ハ、モ、ナ、
出、ハ、出、セ、思、ハ、
所、ナ、
九、時、田中、
十、一、時、
快、ハ、

五日(大) 9.

六日(北) 9.

七日 (木) 9.

八日 (金) 才.

午後、各様平居。西へ急内村へ行。酒を飲
み、酒を飲。馬を騎。七変。武川。河へ東へ
急。急。急。酒肉。馳走。且。急。急。急。
同。同。同。同。同。同。同。同。同。同。

九日(土) 午.

午時至授午時 田島ト西ノ家リ日暮田
島歸ル家ニ来リ山田来ニ酒ヲ食ヌ服中
下手ニ人來リヤガヲ賜ル山田ト足ト三人
大ニ喧シ且ツ踊ル亂暴狼藉深夜
及ヒ山田ト合食シ落シテ

十日(日) 午.

十時起キ上野ステーションニ赴キテ大内氏
更ニ大内氏 寺塚氏 伊藤氏 等リテ自ラヘリ
ルナリ江東中山 関ルト合食ヌ中山先ツ酒
ル余等関ロト合戦ニ勝リ數人、打テ破リ
カバ間ガ意ナクニ途中中ロク外ニ逃レ去レリ
中ロハ愉快ナリ余ハ山田ヲ訪ヒ足ヲ訪ヒ
ニテ江東ト飲ム江東更ニ余ヲ訪フ余大ニ
酒肴ヲ置ク足来ニ食シ、山下等ス大ニ花
トランツヲ戰ハヌ痛飲十一時ニ成ヒテ茶
ハ余ニ置キテ

十一日(月)

二月中

三月中

八日 中井達左衛門は運別命の金に
用ひ

日 中井、伊東、三宅、田中三人、平素高
知、大内ノ業仕了、新子、中井田中不日赴
仕スル運入る。修築園に於て支那料理
一帳應アリ

十八日 中井達左衛門は運別命の金に
用ひ

三十一日 鈴木法ノ園子坂へ引替へ

四月中 吾輩竹町へ侵之助来

八日 紅葉館 富谷 大快

九日 ボートレース 大敗 那珂ノ浜

降うた

十日 鹿島山 運動会

五月中

岡子坂・整居し、潜心卒業論文ヲ草ス。人
信ヲテ抱ケテ稀ハ人信ヲ希ク稀ナリ。余
沈思黙考得ル可キニハ即ハテ草ヲ下ス。荷馬
ノ鞭ヲ以テ岸ヲ下シテ勢アリ。若シ一モ移ル可
キケレバ則ハテ手ヲ束ナシ紙面ヲ睨ミテ空ニ
深更ニ及ブ。余カ室日ニ施メテ少ナリ書教
室内ニ溢ル。余顔色憔悴形骸枯ス
只ター大論文ヲ草シテステ日本建築諸
家ノ膽ヲ奪ハシメテ其ヲ駭ケテ倦ム。余
ヲ知ルモノカニ感歎セザルハナリ相傳ヘテ殆
余カ社中ニ喧ナリ。

ゴッソバハ余カ寓・隣セリ余甚メソバヲ好
ムニ非ズト云其眼望ニ絶佳ナリ見テ以テ洪
然ノ氣ヲ養ハント欲シ、屢々之ヲ訪ヒ以テ
微酬ヲ買フ

六月中

園子坂ニ居ルヲ舊ノ如シ。中旬以後ウレノ
閑ヲ得。往々四辺ニ散歩ス。電ヲ夜甚ク暑
氷ヲ氷ヲ強ニ谷中ニ至リ一茶店ニ入ル。長
幼ニ義ヲ頻ルニ媚ヲ呈シ終ニ狎ニ近クテ戯
ル。全行ノ矢鳥驚テ逃ニ歸ルキヲ一興ナリ。余
寓ト相對シテ混堂アリ。堂ニ娘アリ年ハ二十
超ニト虽ハ婢相竊家ノ人以テ四辺ヲ一義人
トナス。厚情治郎頻ルニ之ヲ窺フ。虽ハ義人則
義徳行ヲ敢テ犯スベカラスト云フホリ一話ナリ。
園子坂ハ僻境ナリ。貧者多シ中ニハ紳士
レ。余自ラ藪中ノ鶴ト称ス余移住シテヨリ十日
余ガ名ハ坂中ニ高シ。寓ラ去ルハ三町根津
神社アリ晴天ノ日ハ兒童集テ相戯ル。余屢ハ
来テ之ヲ見ル。毎ニ東坂社江漫遊ヲ追慕ス。
寓ノ南三町揚子店十数アリ皆根津ノ陣兵
リ余故アリ屢ハ巷辺ヲ往來ス因テ詳ニ其
状況ヲ知ル。余一ハ之ヲ驚テ愕テ敬セント
欲シ終ニ果テス。

二十九日母上京ス

七月中

水・平素論文・評

余が七歳の暑假に入り、多年、艱難辛苦の實ヲ
タルハ只、今日アルヲ期スレバ、今、又大學三年
課程終了シテ卒業論文亦將ニ完成スルヲ以テ、
凡テ七卷六百八十四枚多キ、至リ、是ニ於テカ
論文ノ名聲望シ。

1. 山下評曰ク、伊東氏、敏オ、加ツル、其健筆ヲ以テ
2. 且ナル哉、其調査周到、立論高尚、レ、筆鋒英利
ナル、教授諸氏、之、由テ大、得、所、ヲ、盡シ、百点
ノ優値アルモ、ナリ

2. 田島曰ク、伊東氏、勞力極メテ大ナリ、而シテ其文オ、著シ
其著作ノ好ヲ披ケリト

3. 茂田、在米、論文、大槪記録ニ因テ、伊東氏、論
文、真、論文ナリト

4. 真水曰ク、縦横敷引シ餘ヌ可無キ、ハ伊東氏、
博、好、技、ナリト

5. 辰野曰ク、コレ、好著作、ナリ、惜ケルハ冗長、失スト
其他、評言多シ、要スル、之ヲ批難スル人
アルナレ

或人余ノ論文、造ラ傳ヘテ曰ク、伊東氏、大學入

18 早稲論文の志を承一日之志を以て
暇に英仙陽知漢荀之の関ス、其類、意
之、関に餘を所ナレ。氏ハ二年、其の草を起し
日、草を所教當下ラマ、改タレテ、今ハ
到其論ス、所路百萬言、紙頁實、千ヲ超エ之
ヲ分ケテ七卷ニ屬ス、蓋に空前絶後、大論文
ナリ云々針程ハ、棒程ニ傳ハ、世に
常ナリ天下ノ事知ルベキナリ

計画固モ亦、非常ノ好評ヲ博シ、其の展覧
ハ余九十五点ヲ与ヘテ蓋に亦、空前絶後
ナリ云。

余ハ此ノ卒業論文ヲ以テ、是ノ諸士ノ
胆ヲ奪ヘ、是ノ進ヲ造家社令ヲ蹂躪シ
名声ヲ轟カシ、手ニ噬シ、拜フベキナリ余ハ自
信ナルベカラズ、余ハ自愛セザルベカラズ、余ハ
家ノ名ヲ成ルモハ、汝ニ余ナレバナリ。

中二家足一婚儀

家足ハ七月四日ヲ以テ豆村ハ人美田再平・次女
 心ト婚セリ心氏年二十有一其人ハ下
 下カニ

	豆 村	豆 村	豆 村	豆 村	豆 村	豆 村	豆 村	豆 村	豆 村
操	85	85	85	85	70	85	80	85	65
行徳	80	80	80	80	60	80	75	70	65
政家	85	85	85	80	85	75	80	95	70
隆文	75	80	70	75	70	60	60	95	60
信孝	75	80	80	85	75	80	70	70	30
貞空	60	65	70	65	40	65	65	60	85
信雄	70	70	80	50	40	60	90	85	70
隆財	85	90	90	70	50	100	50	80	20
	675	635	640	580	470	605	560	660	0

伊 東 ツ ル	平 田 ツ ル	田 中 ツ ル	那 珂 ツ ル	村 井 ツ ル	大 内 ツ ル	内 村 ツ ル	中 原 ツ ル	伊 東 ツ ル
------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

五 四 五 五 六 六 六 六 六
 。 九 六 八 。 三 四 六 七
 。 。 。 。 五 五 。 。 五

之ヲ要スニ兄嫁ハ天晴ハオ女アリ質女アリ
ガ此ヲ要フ得ルハ実ハ質マ可ク慶スベシトス。
ソレ女ニ一兄一姉一弟一妹アリ又ハ六子ニ入
将ニ卒業セハ此ヲ病マ死ス一姉ハ大坂ノ人某氏ニ
嫁セリ一弟年十有九高ナ中ニ一弟一女生ナ
名ヲ伸之ト云フ敏治怜ナリ好見ナリ一姉年
甫ナテ十四余未タ其性ヲ審メズ

第三

大学卒業証書授与式

八十日：挙行せられ母、姉、叔母、瑞永聖女、
 曉場ニ、午前十時、始テ十二時、終ル。
 此日、日暮工科大学卒業生一全松澤橋、
 妓ヲ聘シテ痛飲ス

第四

前途、方針定ムル

余、實ニ金ノ大学全料ヲ奉ヘリ余ハ此レヨリ
 大学院ニ入院シテ日本建築ヲ専修セン二年、
 助教授タラン(二十ハオ)三十歳、
 二歳ニシテ博士タラン三十歳、
 三十七歳ニシテ大学教授タラン四十歳、
 五十五歳ニシテ官私両道ニ入リ、
 實業ヲ試シテ六十
 歳以上ニ至リテ、
 著ハシ書ヲ弄ビテ
 斯ナルハシ余ハ自ラ是レヲセン、
 余ハ亦シ深
 自ラ望マザルナリ

第四 帰省

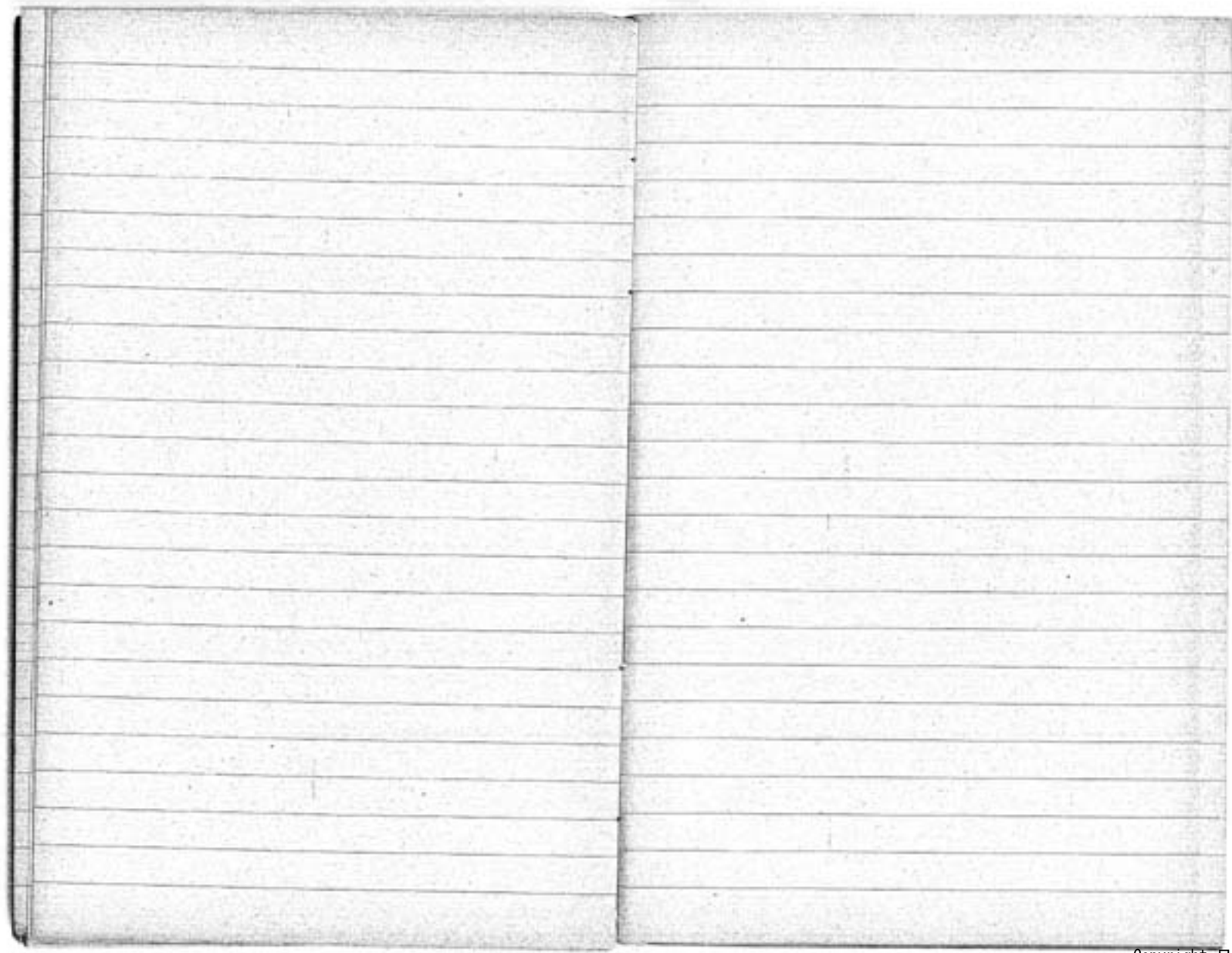
帰省中別々異事あり

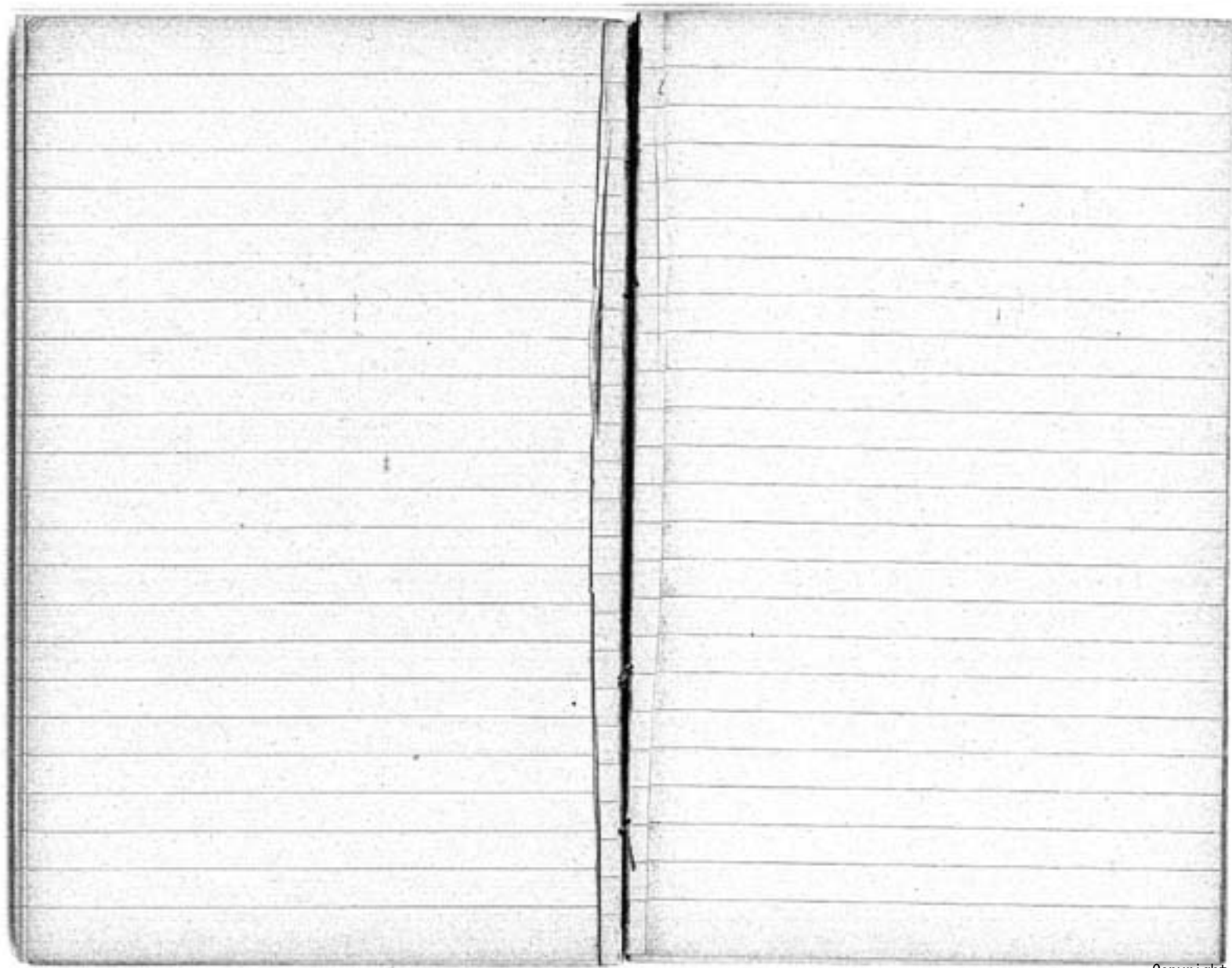
- (1) 兄夫婦父母及祖母と大に寵愛せられ、嫂伶俐機敏能く姑舅ノ意に投スルバカリ
- (2) 有る命大等と雖も多スモ、百五十余名、小林、下等華最と稱施ス宇佐美、小林、事務報告及山崎亭士宇佐美助役、演説アリ余と演説アリ試シテ果サズ蓋し未だ、地漸々人々ニ近シテス所ナリト特ニ大學出身ノ人ニ睥睨スルハ抑々亦ハ概スヘキ哉
- (3) 余従僕及内弟ヲ將テ近郊ニ遊ブ所ニ回常ニ酒食ヲ携ケ料紙及丹青ヲ負テ其樂皆ハ然トシテ復タ人生ノ外ニ在リ
- (4) 湯沢ニ弟村井アリ之ヲ訪フ途次古井後谷、井上、小笠原、岸、諸氏ヲ、(宇屋、栗田、嵯田、知達、諸氏ヲ訪フ與非常ニ大ニ特ニお井ト號年ノ終況ノス快殊ニ甚シ
- (5) 父母殊ニ余ノ學子ニ長スニ愛シ余カ博士タリト希望ス父病家ニ在テ偶ニ余ノ

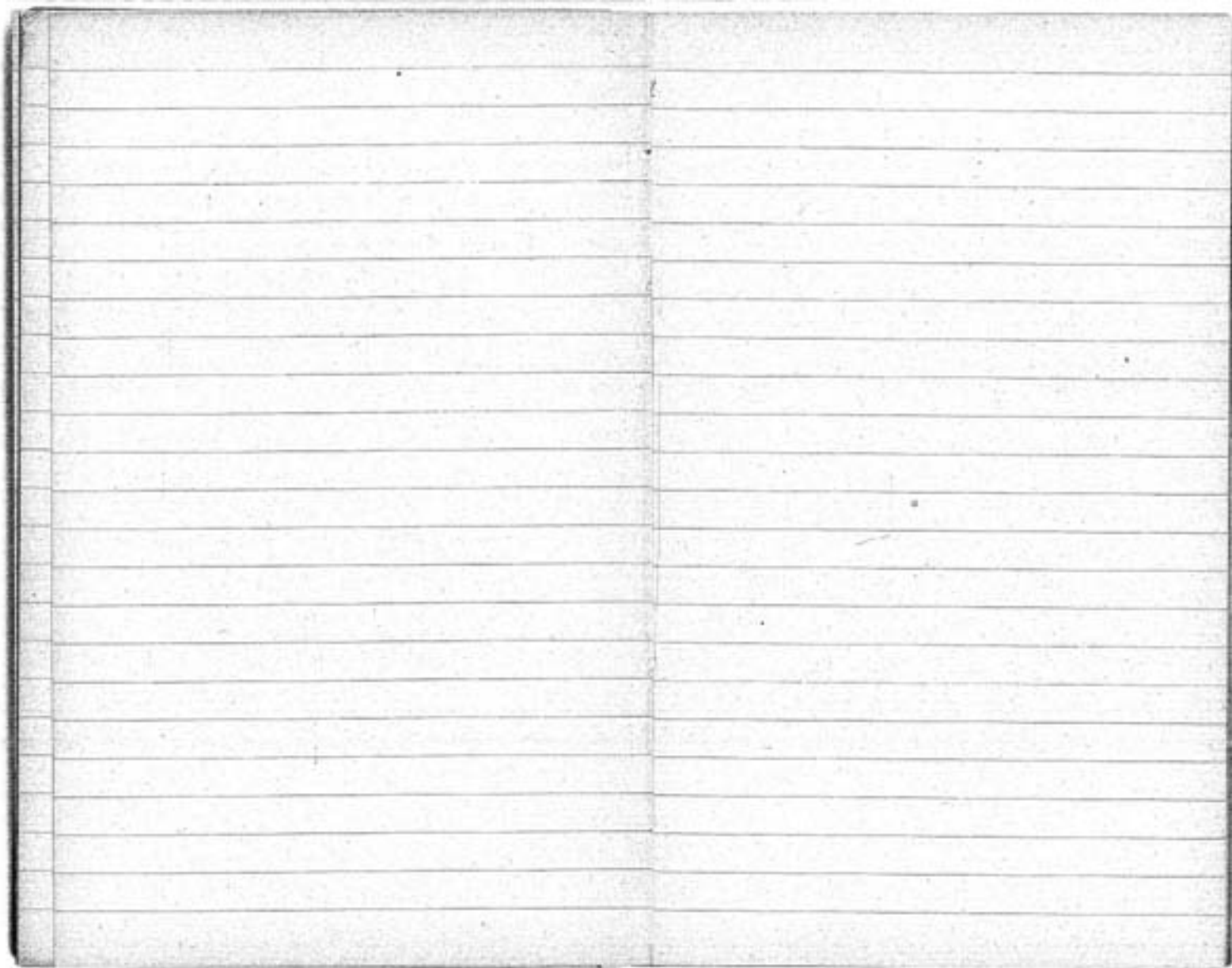
好評の所ハ即ハ帰テ之ヲ余ニ語ル喜
色ニ溢ル余ガ実カ蓋シ人ノ評スルカ如ク至
ラズスモ父母ツレ基ノ喜アラレルモハ勇
ハ余ノ一孝タラズ

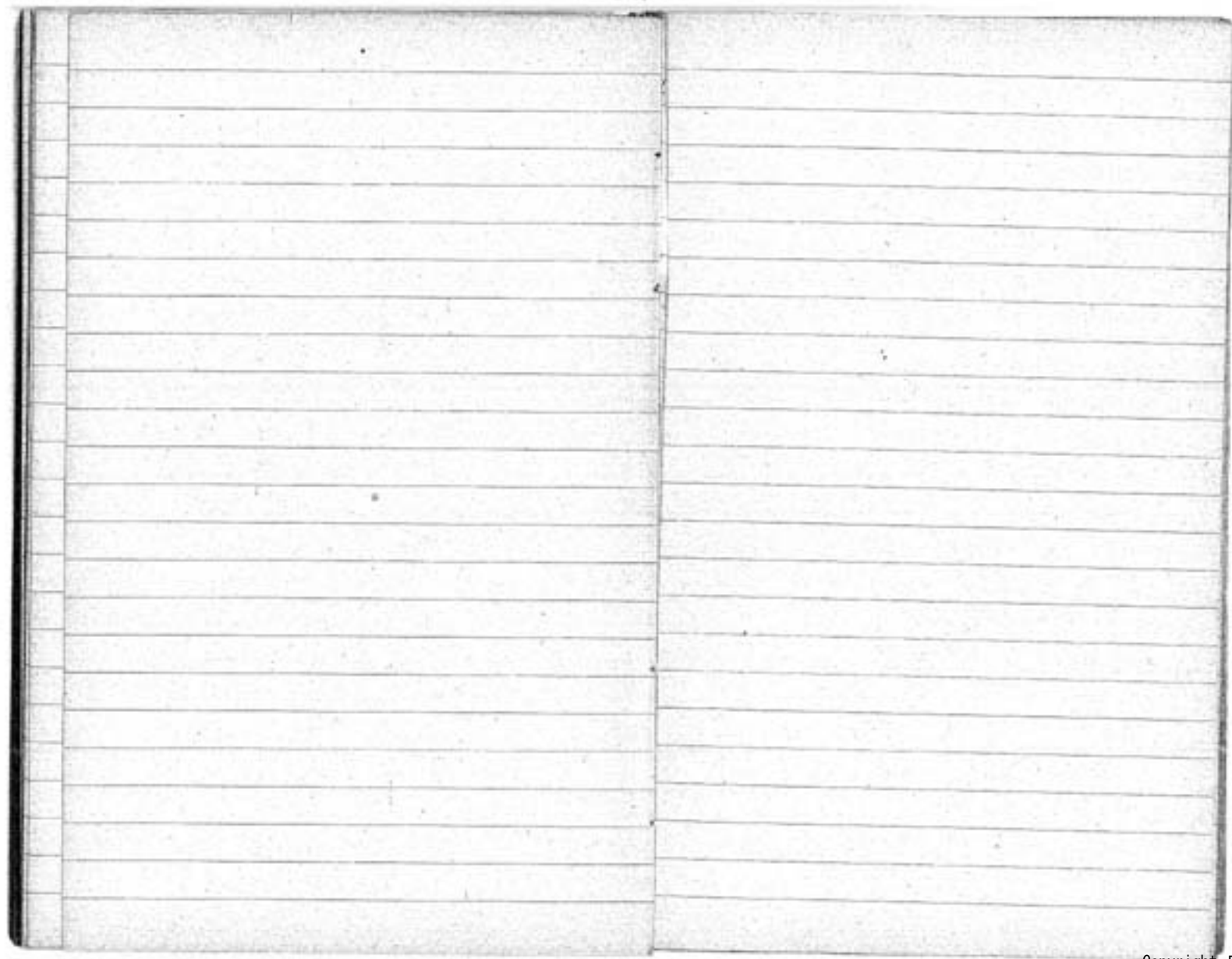
八月
上京

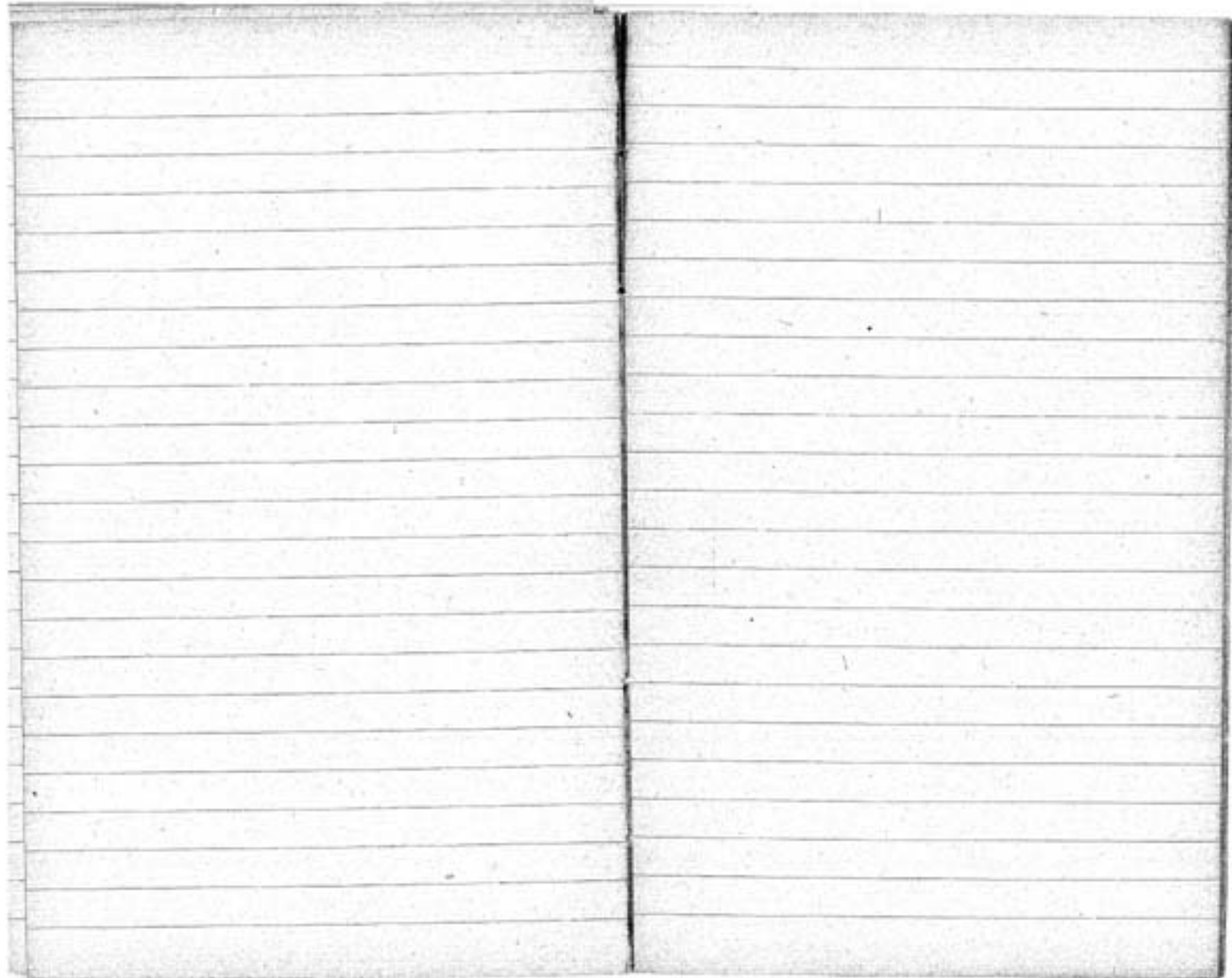
實地界、艱難

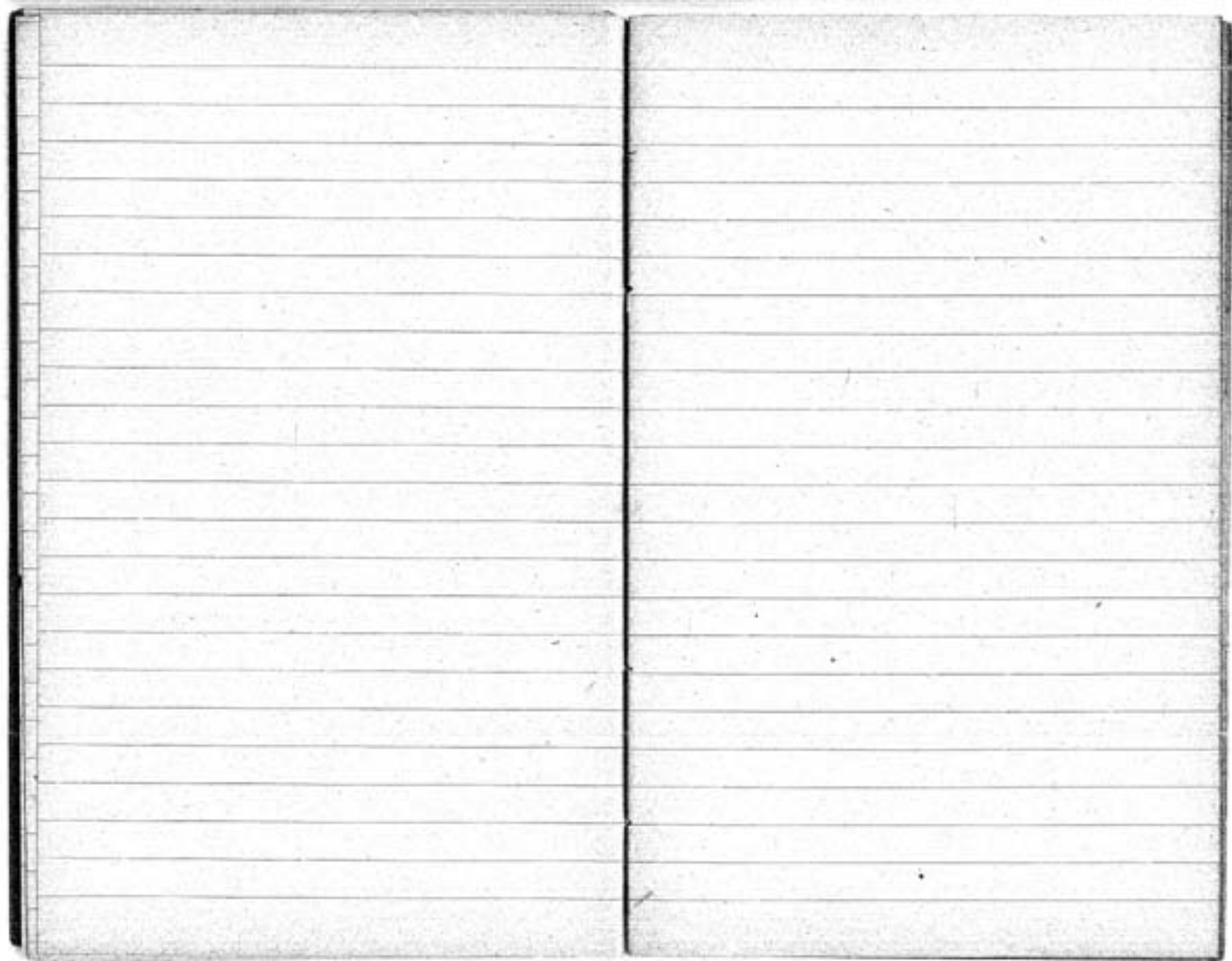


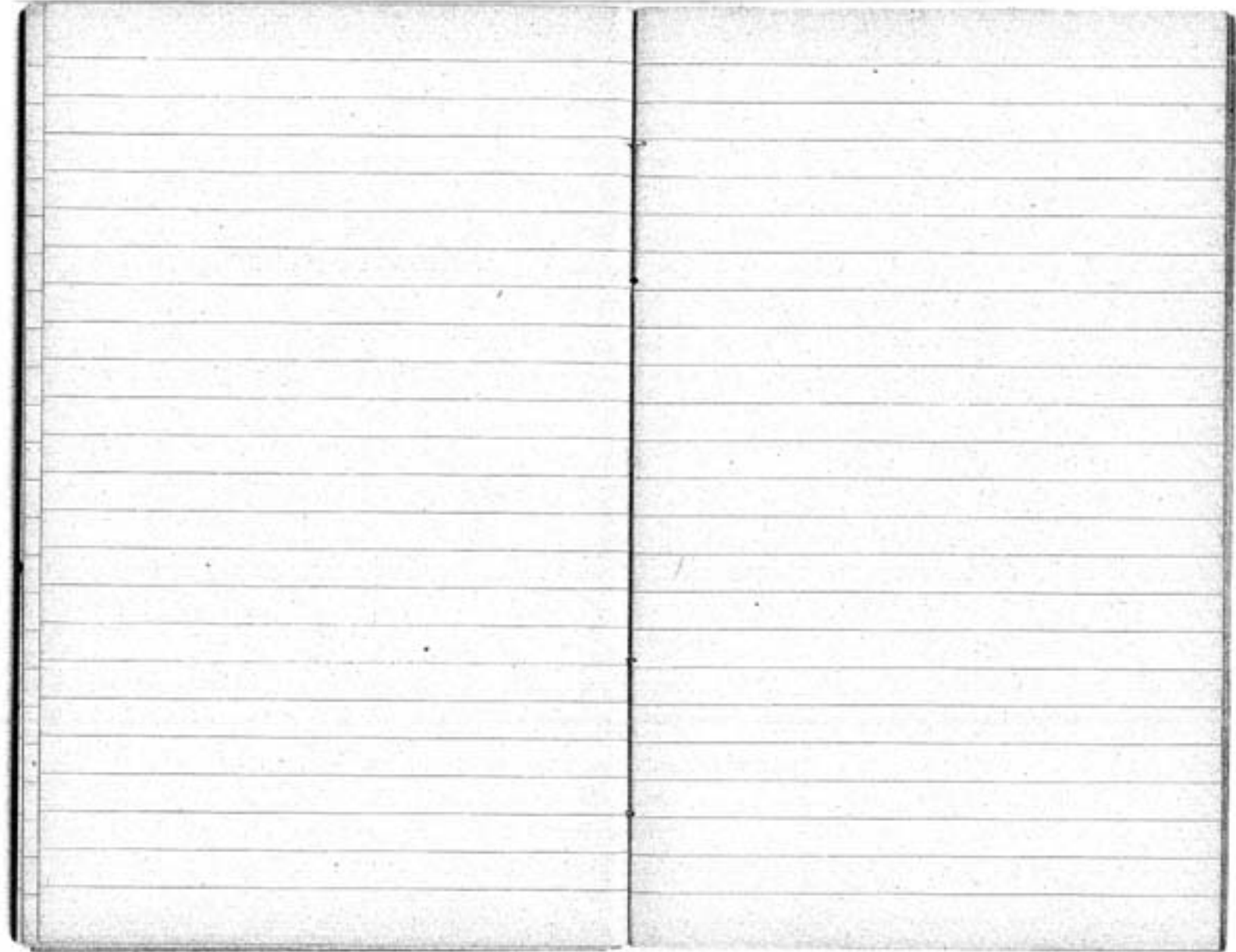


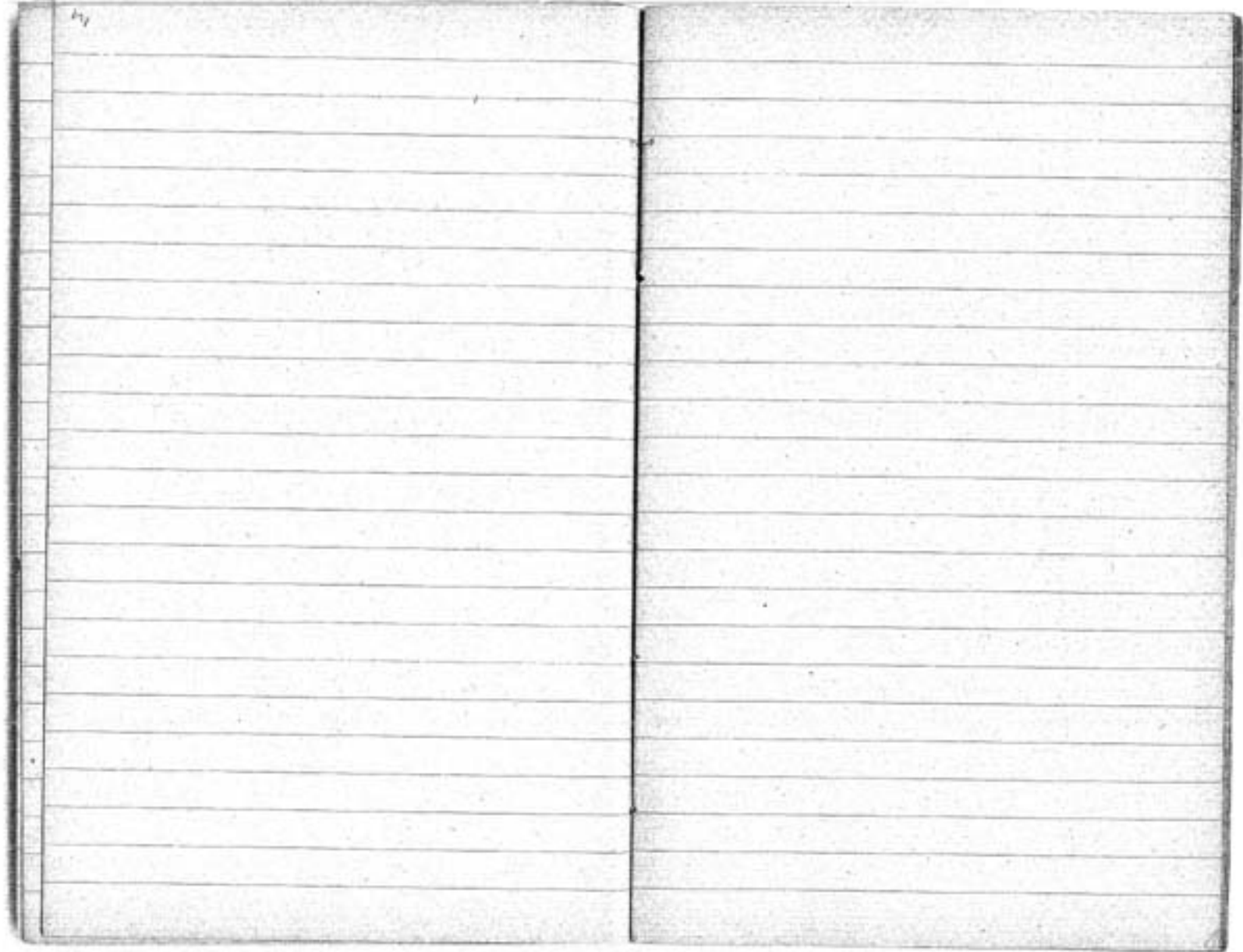


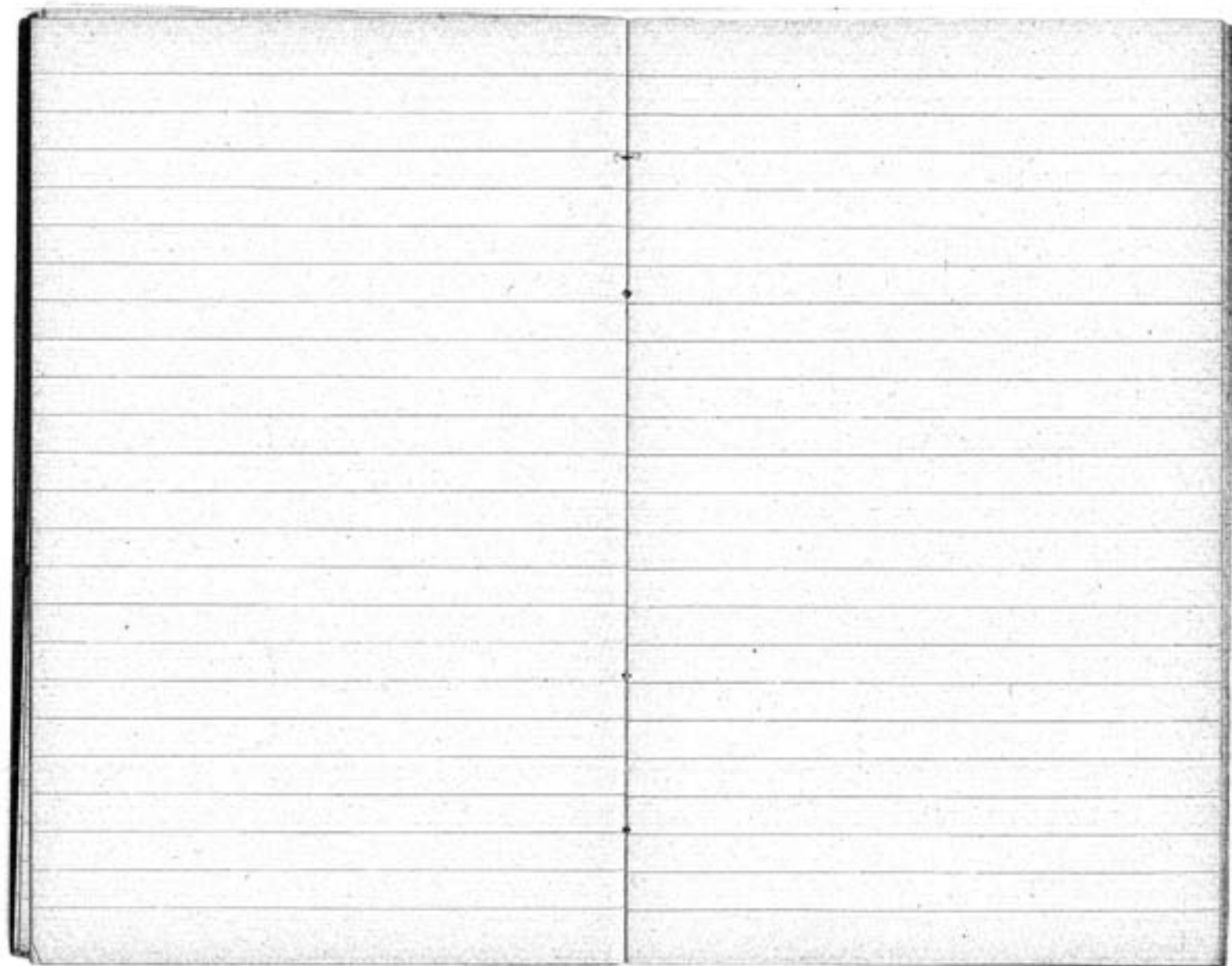


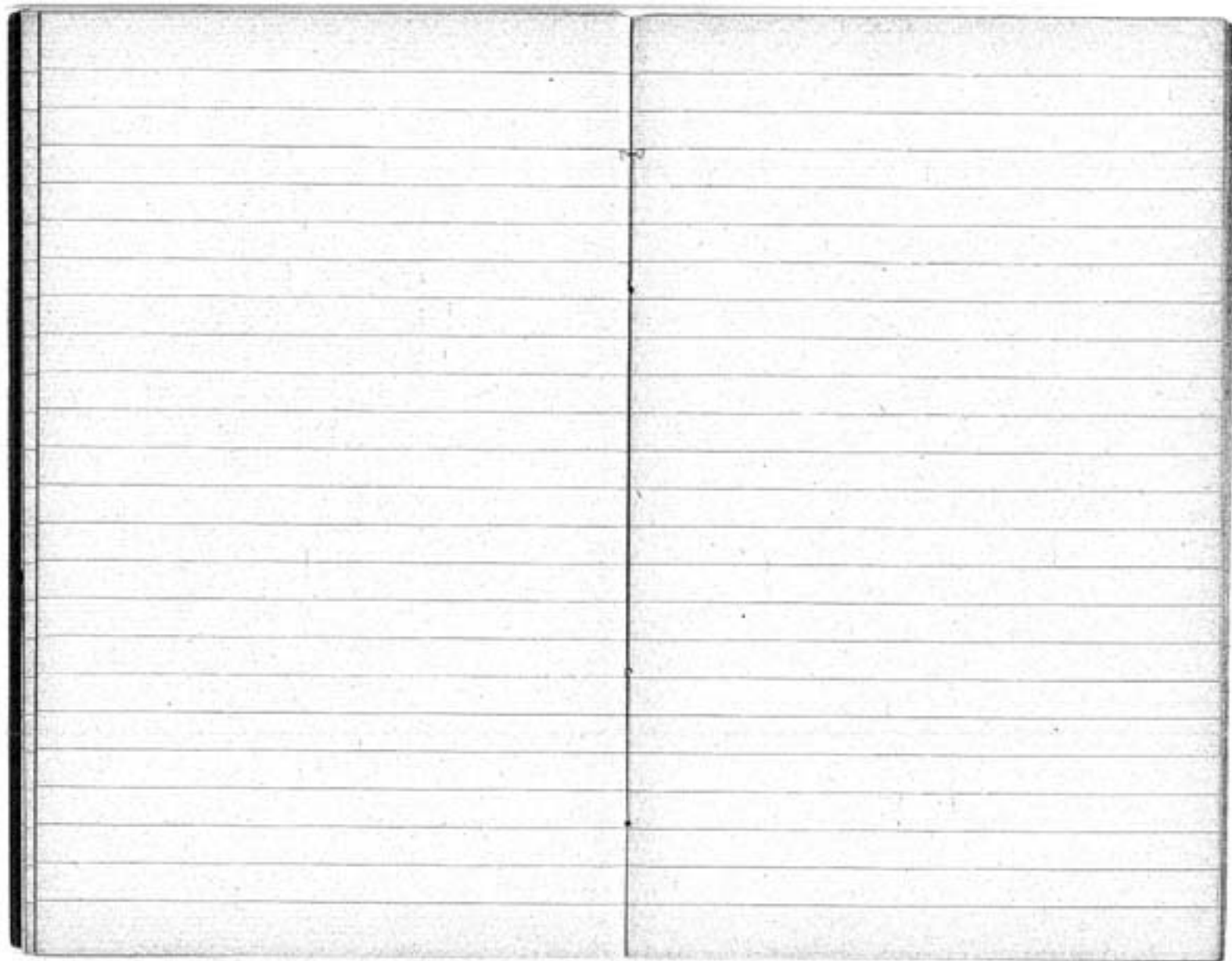


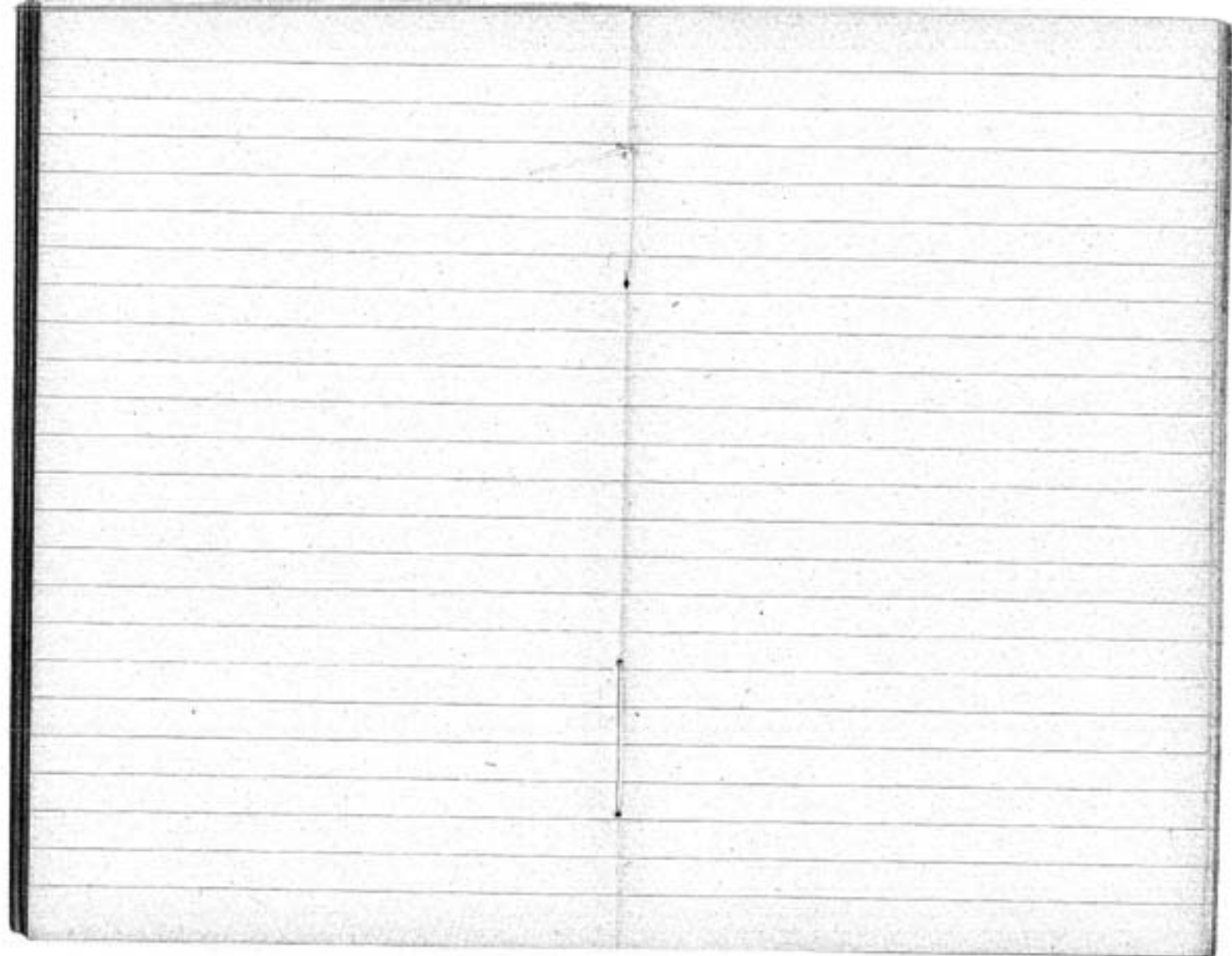


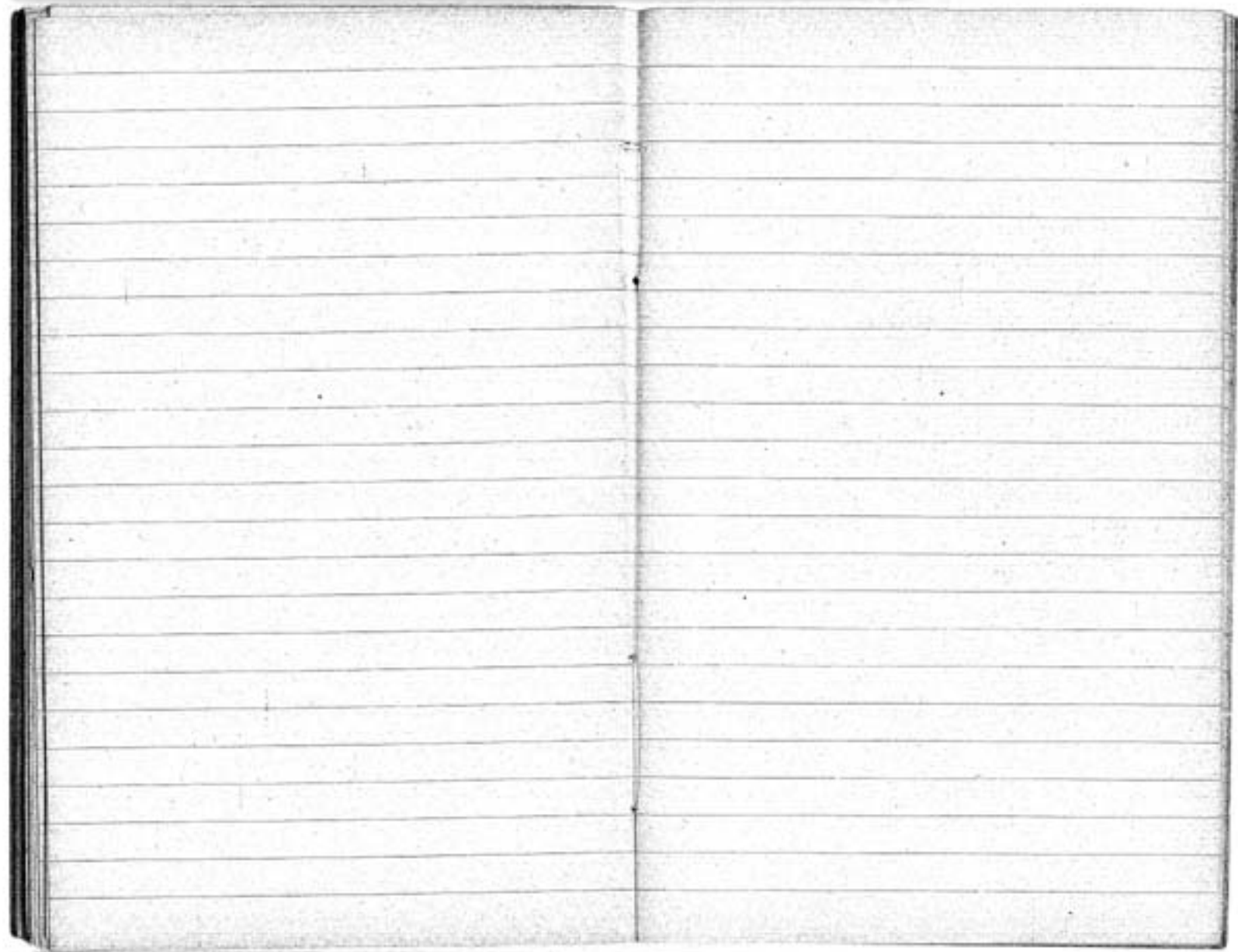


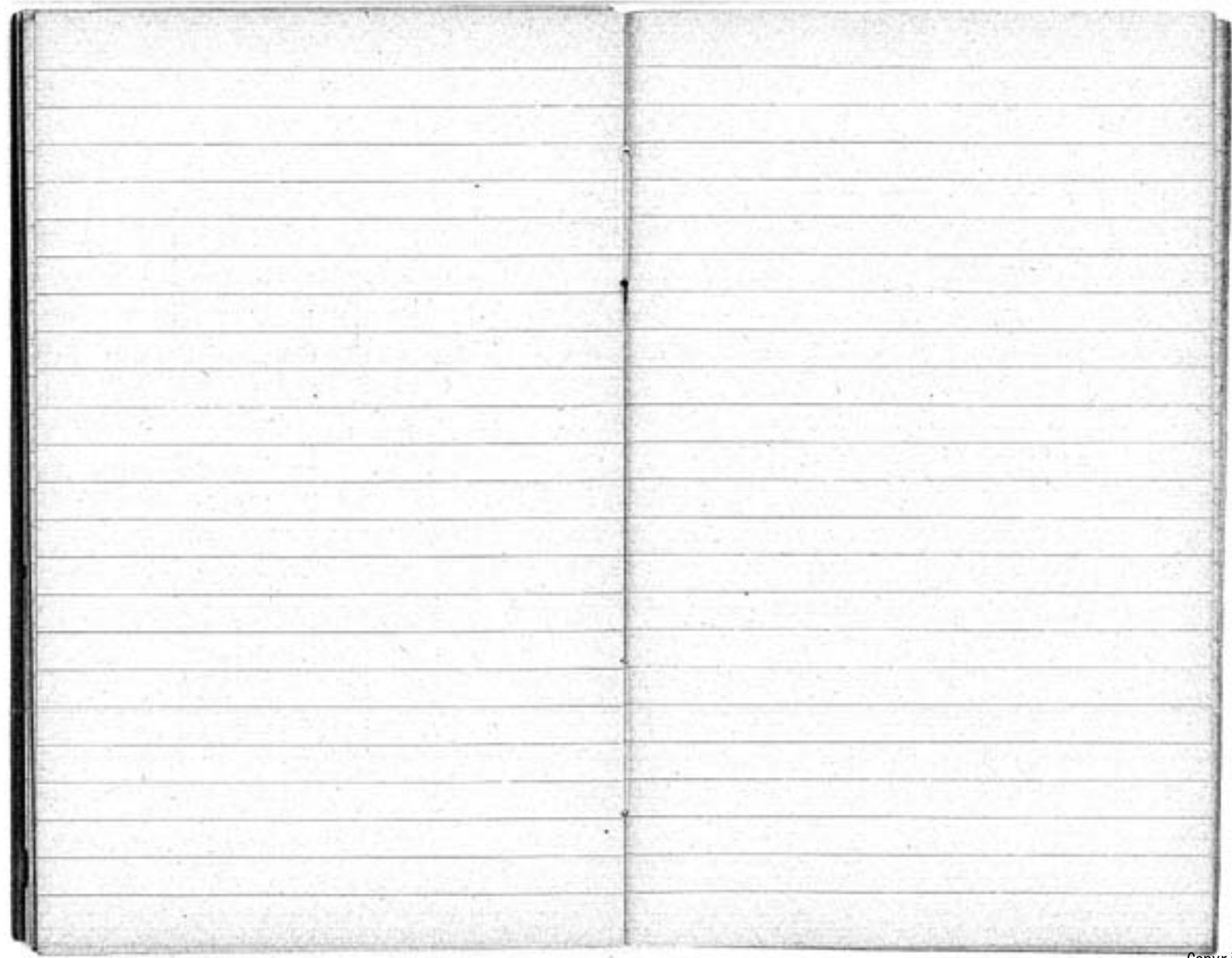


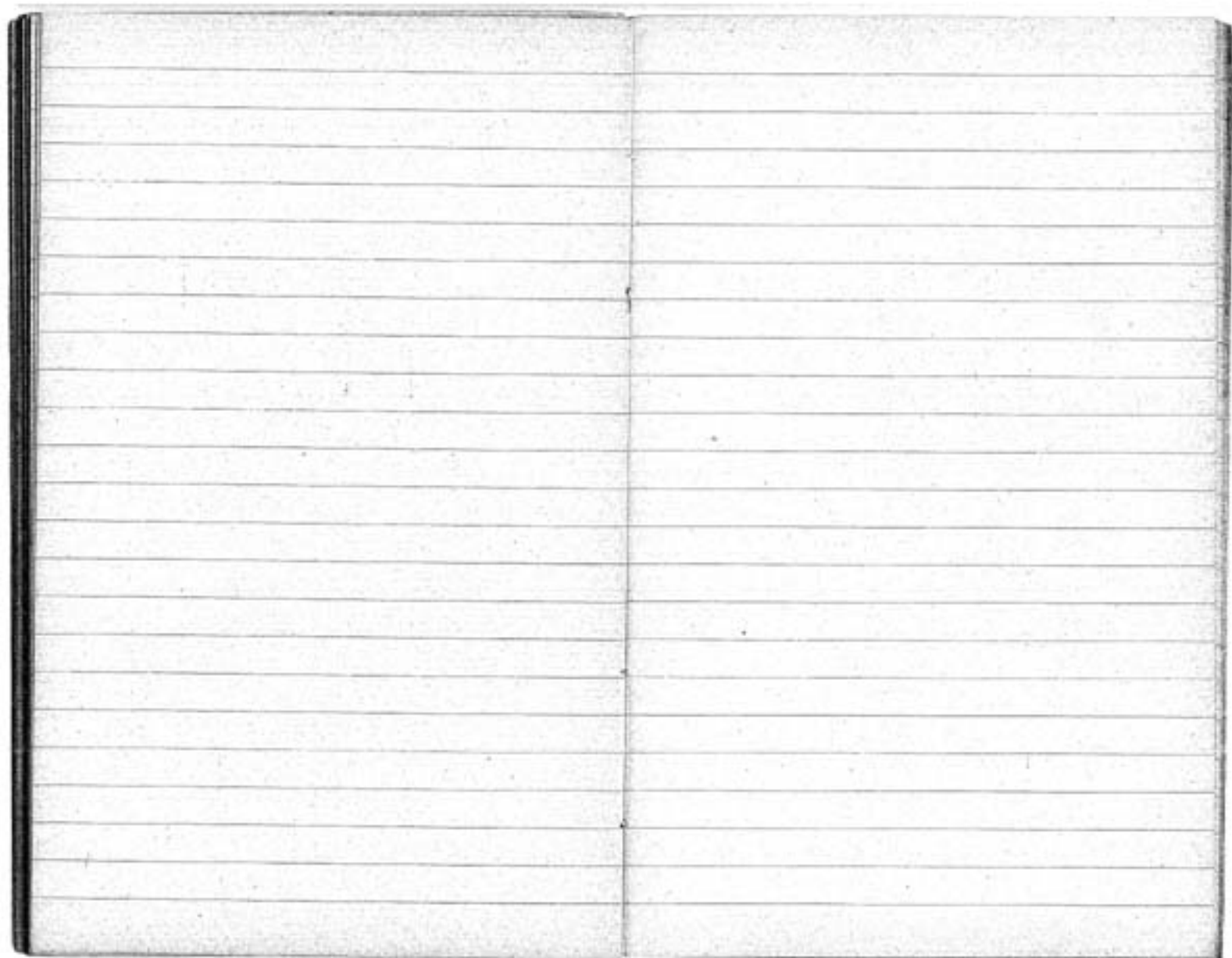


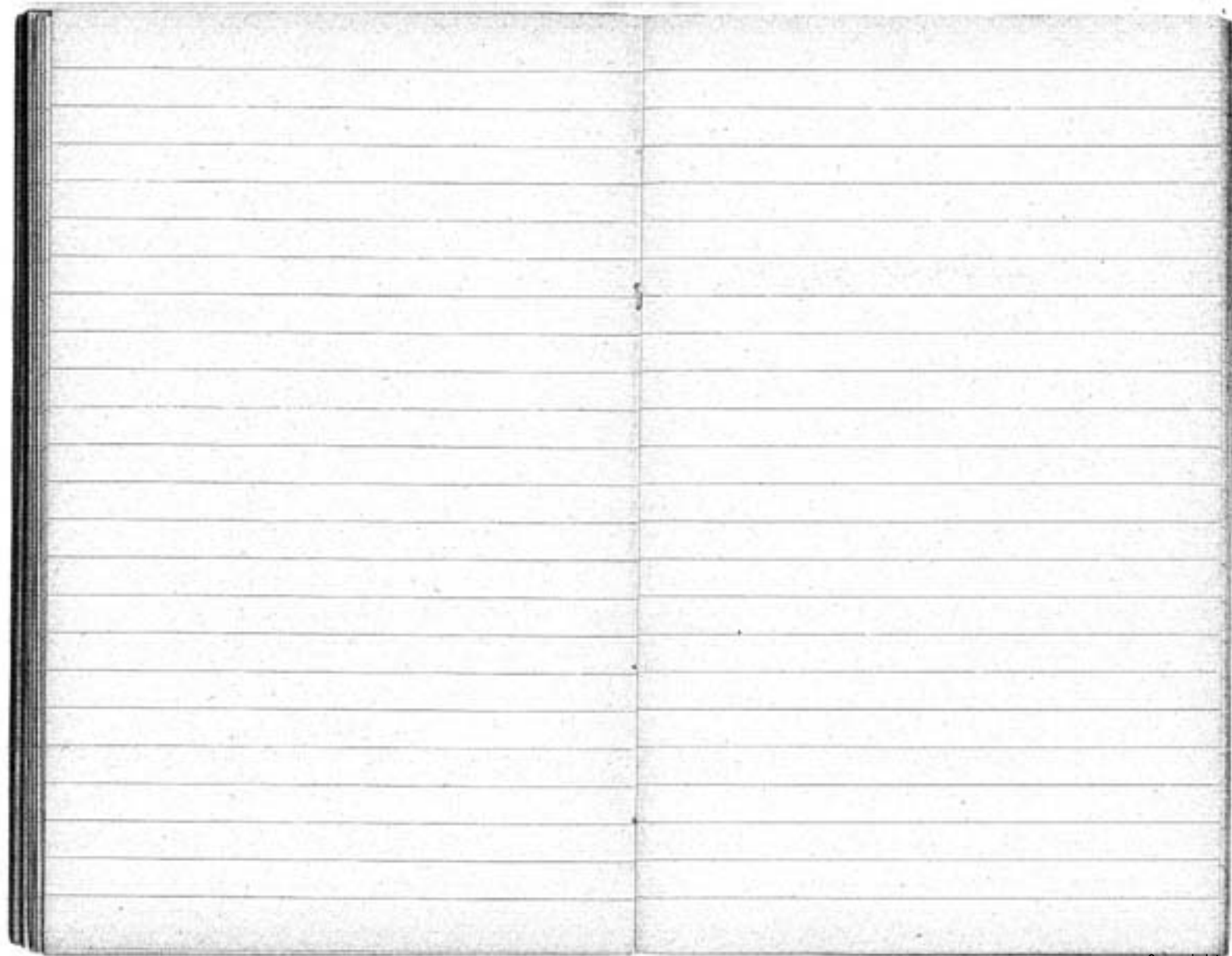


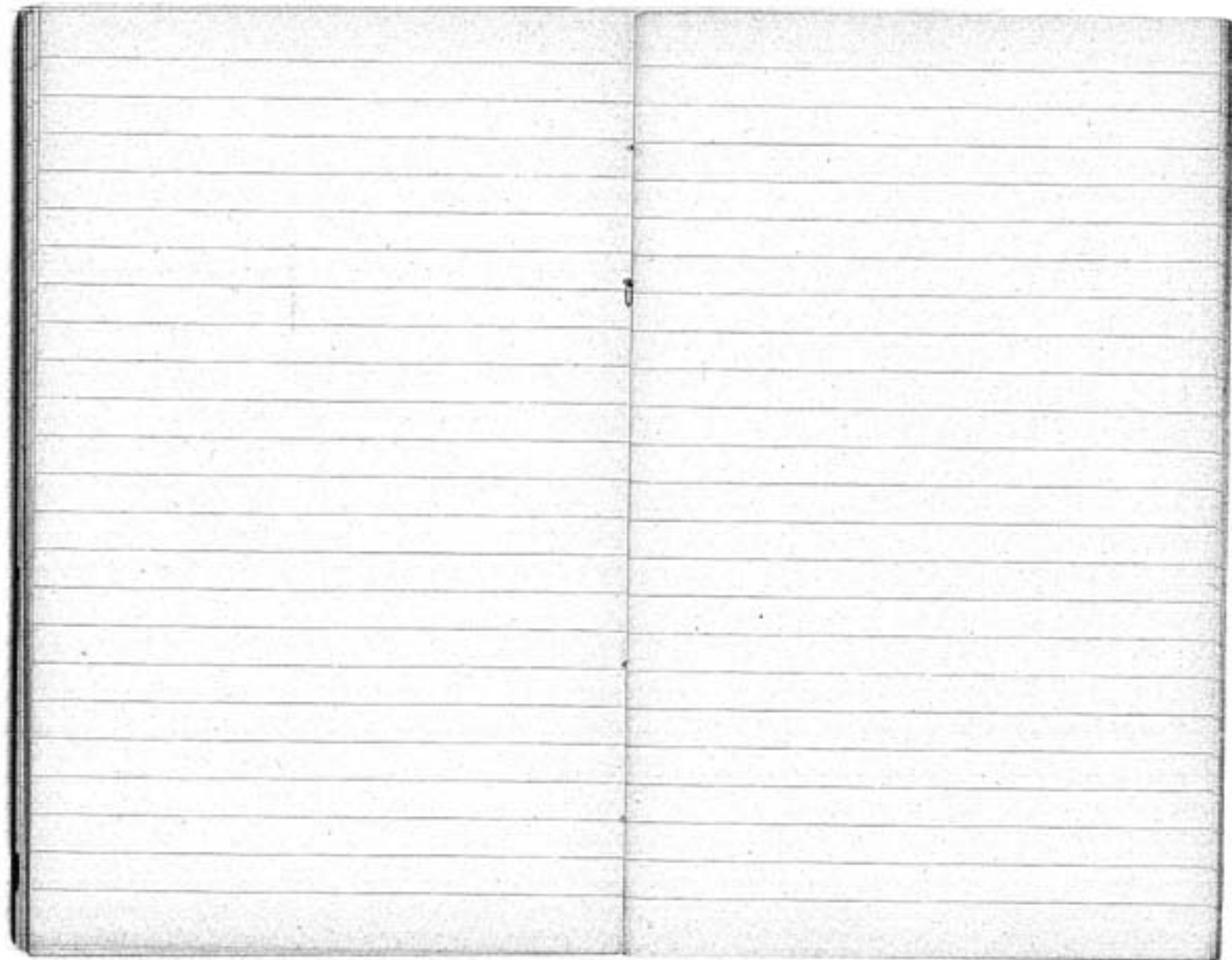


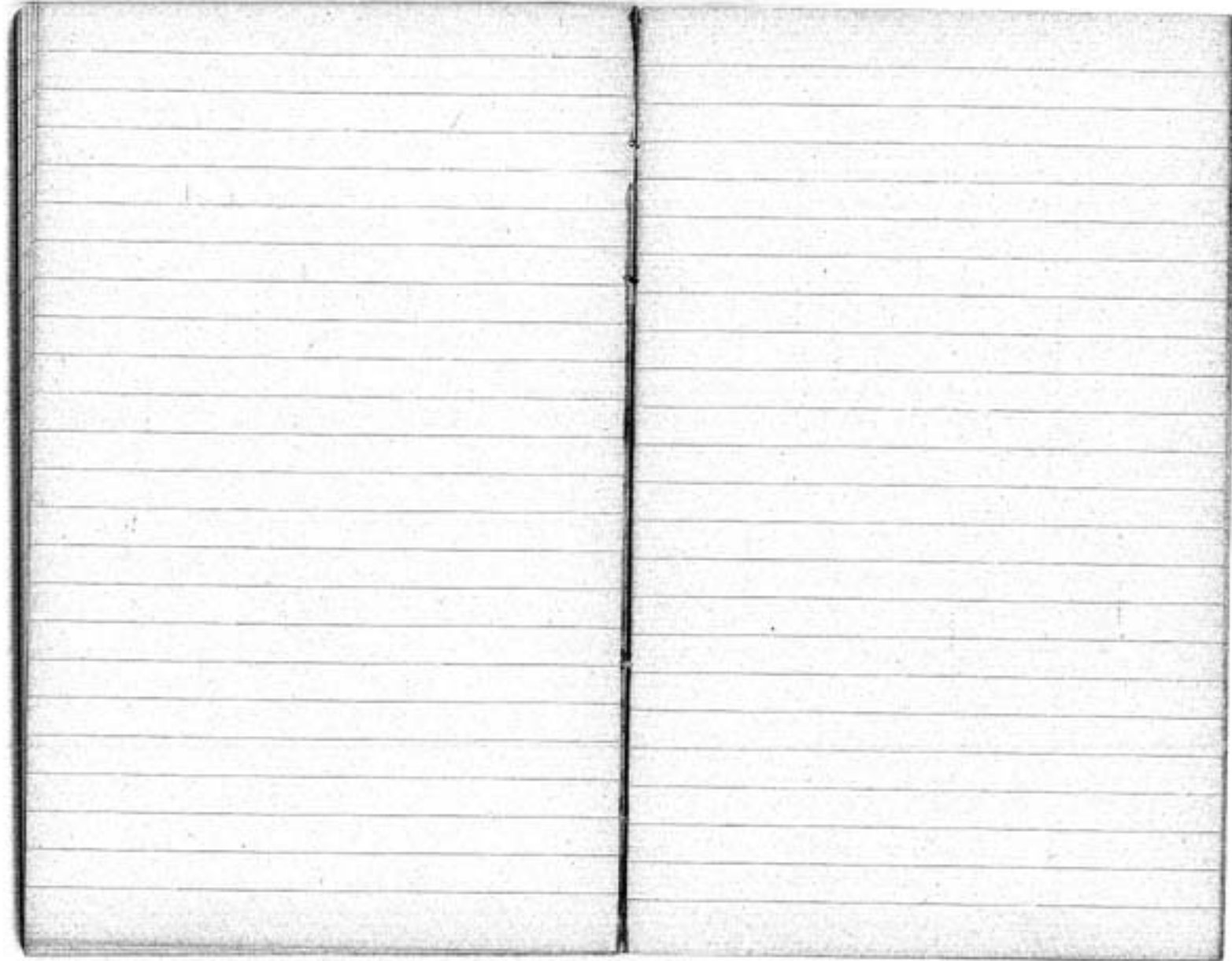


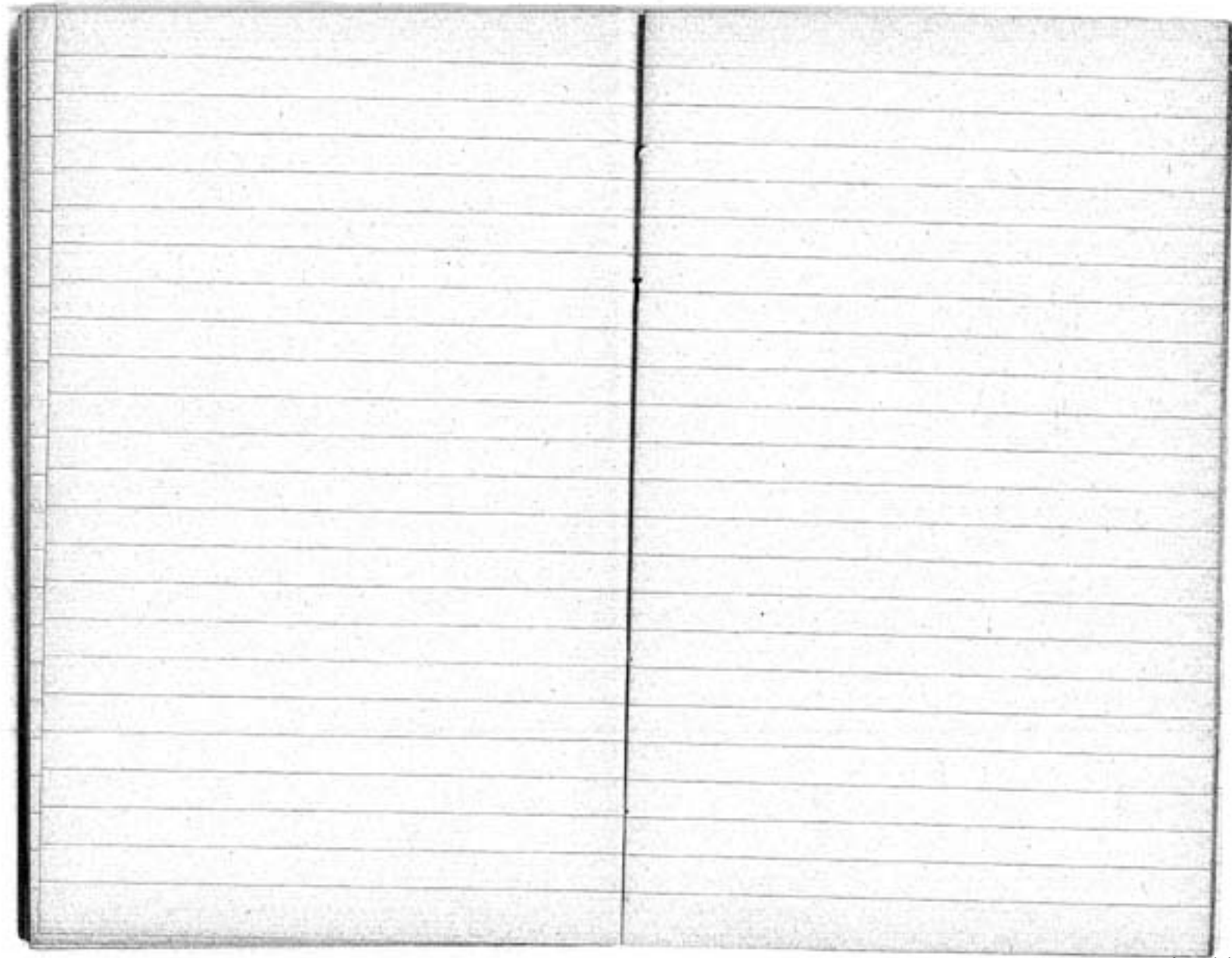


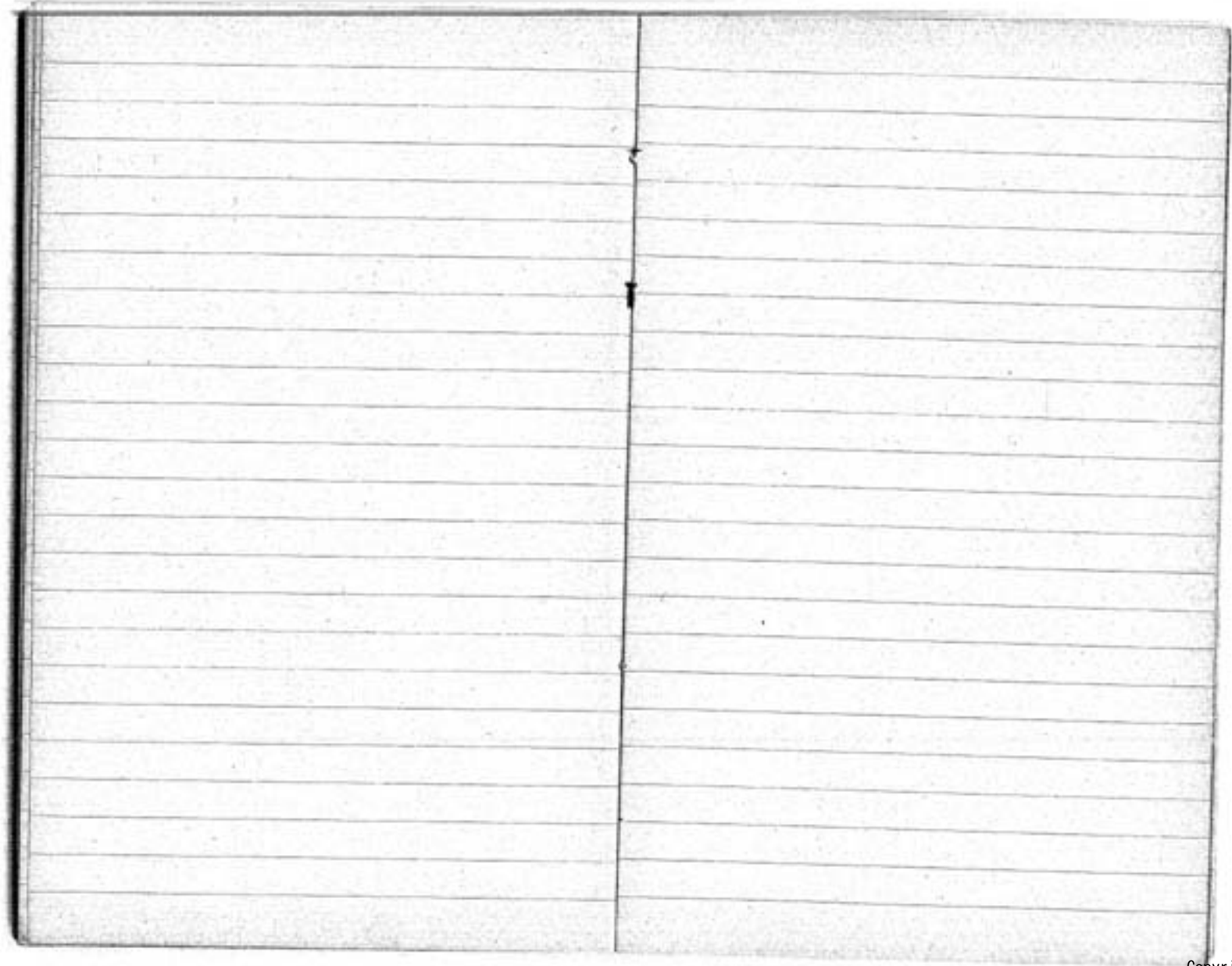


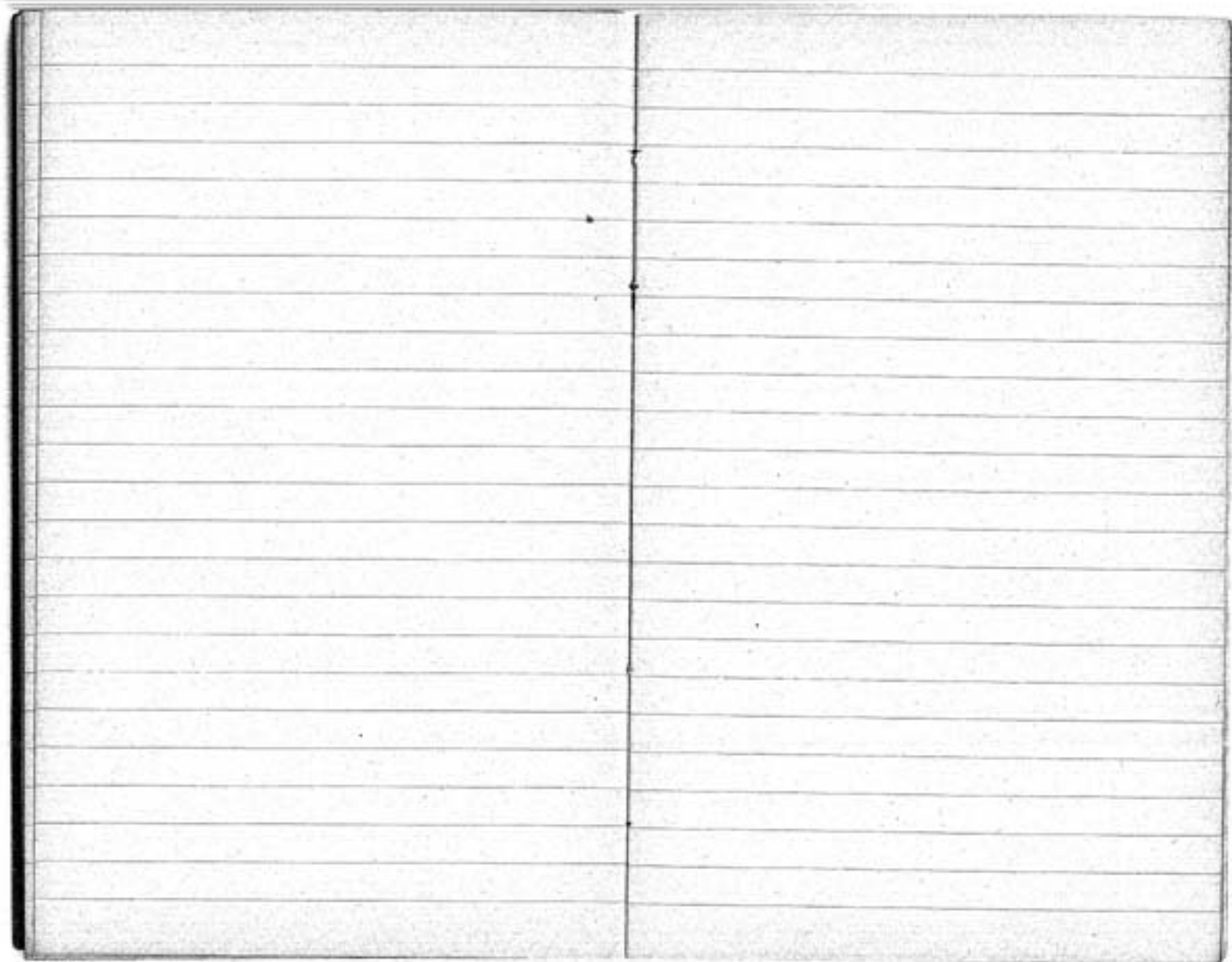


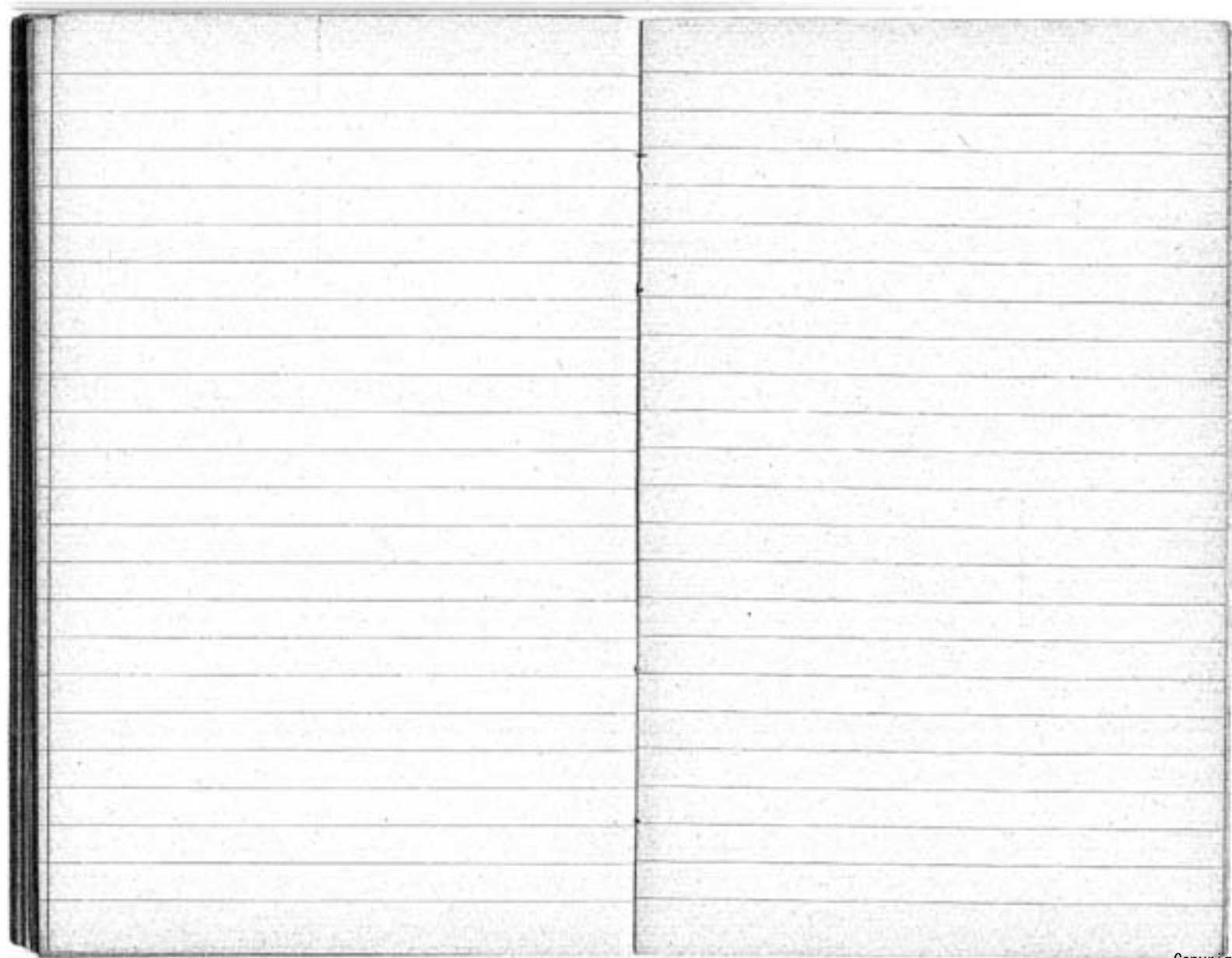


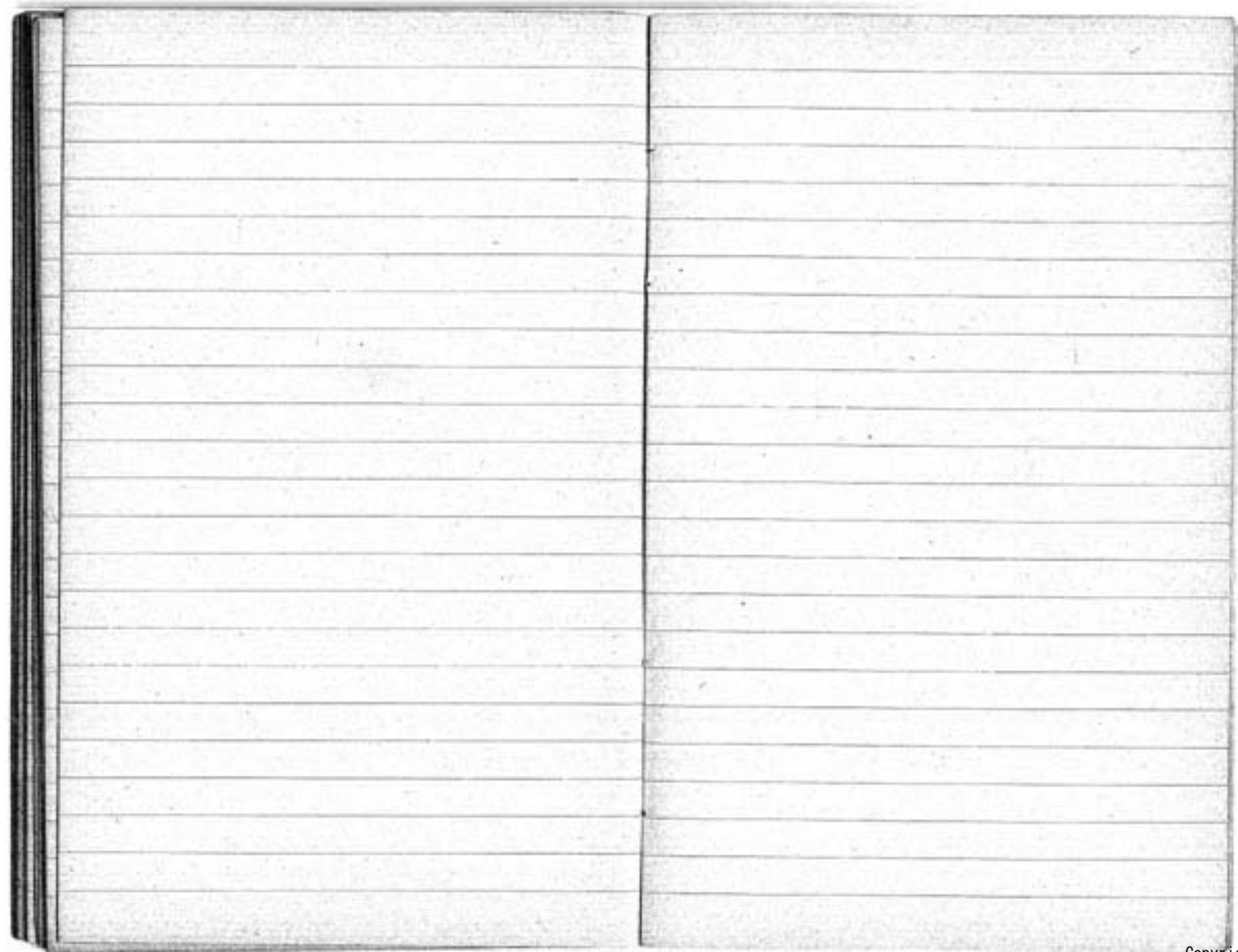


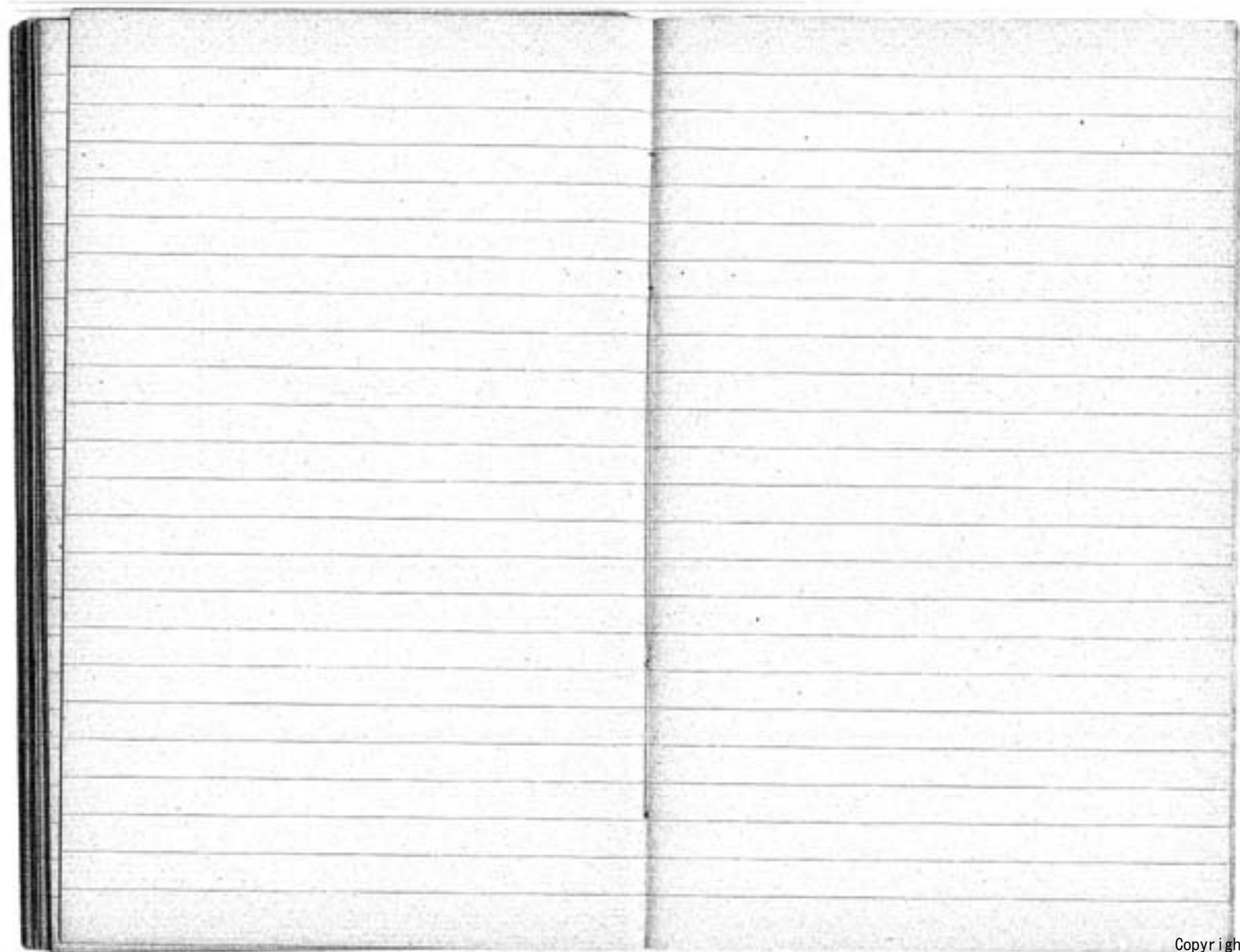


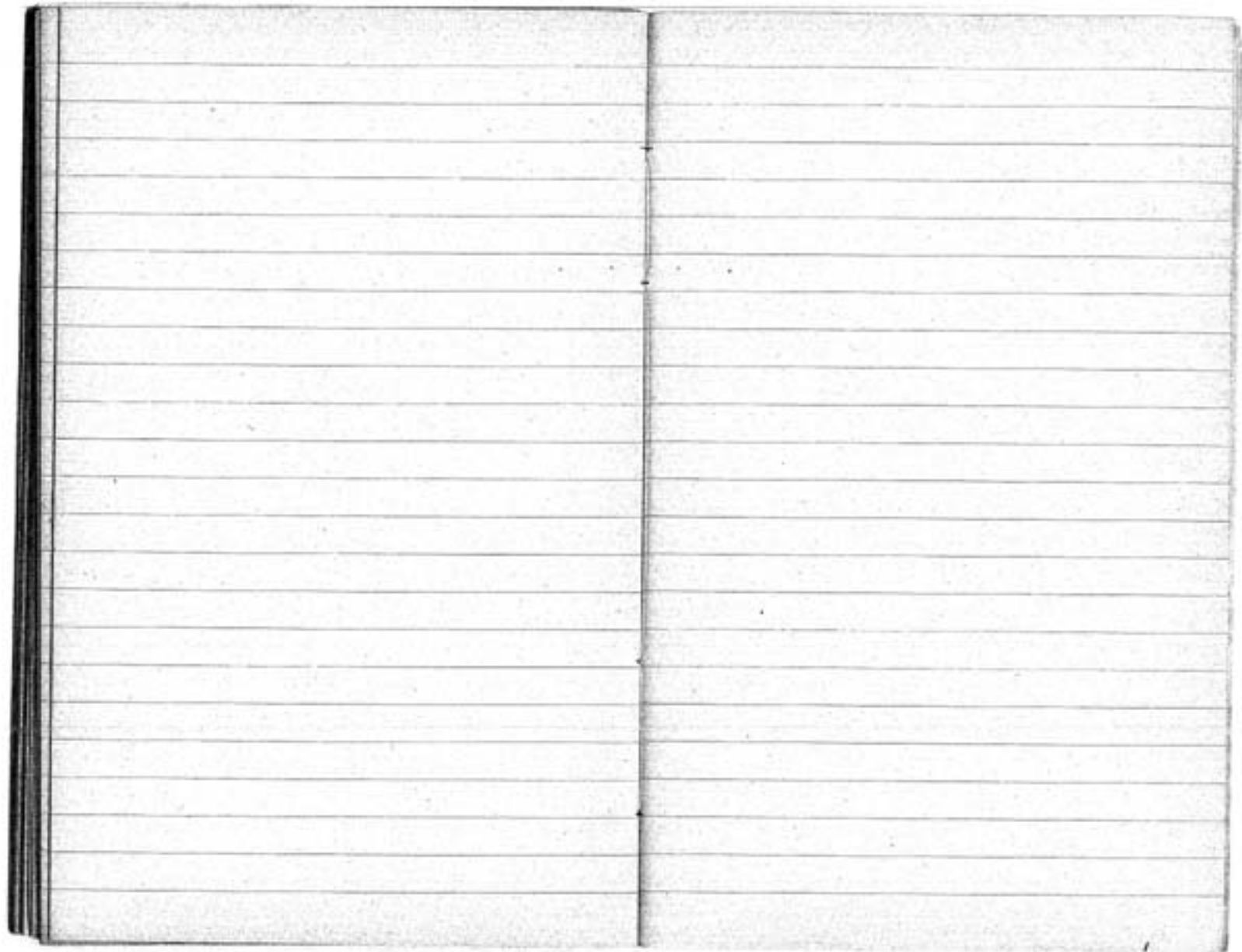


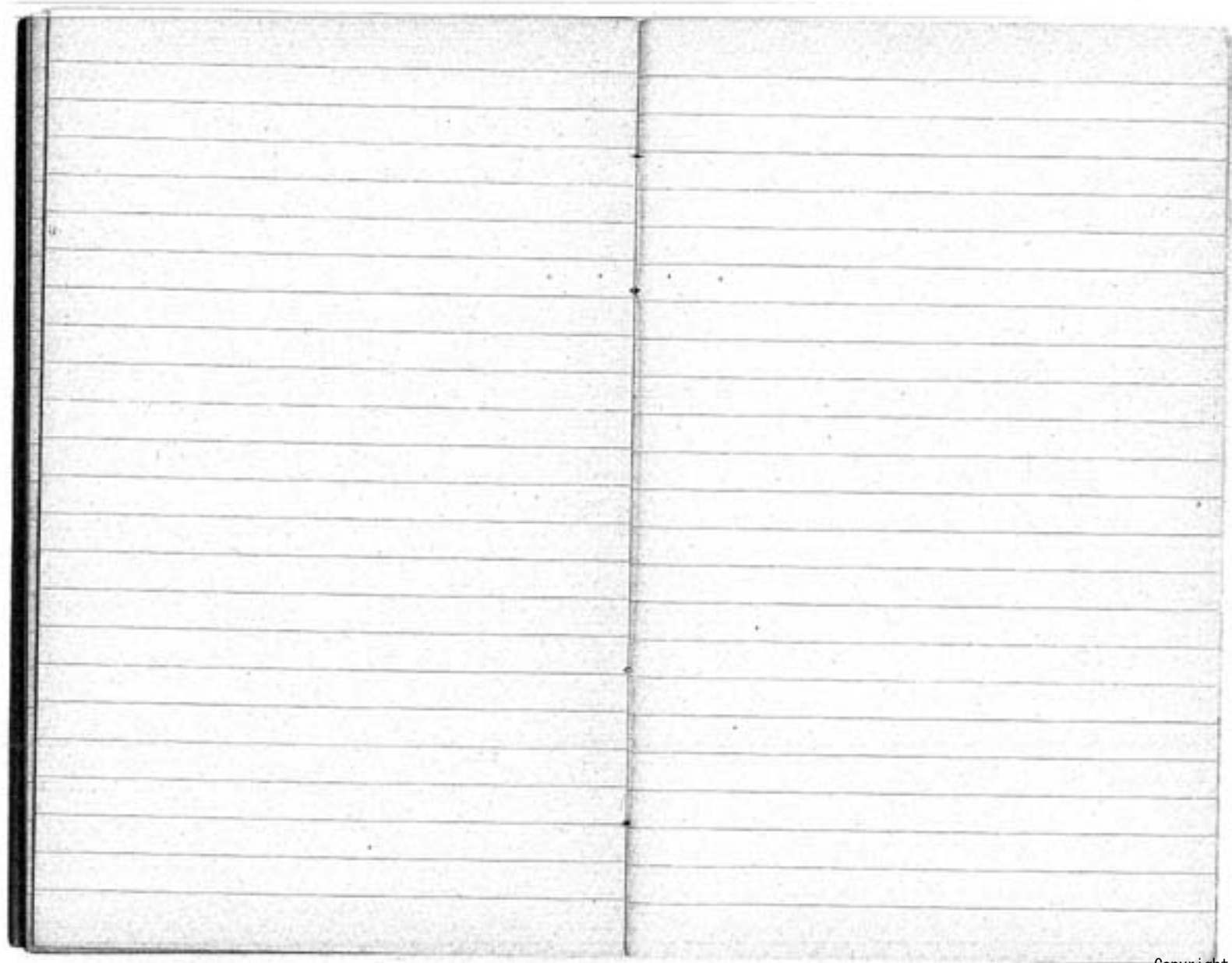












2. 1. 4. 5.

2	3	4	5
---	---	---	---

10	11	12	13
----	----	----	----

100 40.21 20

19	26	41	21
----	----	----	----

100-100

八、海防 卷四

1994-1995-1996

© 2004 Blackwell Publishing Ltd

22-23-24

5-5-10

A. 2007-10-10

1994年12月15日

— 222 —

1998

—

24

1

5

沈氏之學

五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

2 (உயர்தர) அங்குசம், நெய், பருப்பு, பருப்பு

小英 18 岁 56 厘米

[illegible]

第 4 次 (1944 年) 改正

將正參以在體之人也 (註同前)

$$x \left(\frac{1}{2} + \frac{1}{2} \right) = \frac{1}{2} + \frac{1}{2}$$

卷之七

時院題名之卷一

張三

常平(史)上卷(新刊)

第-版(1954年)重印

圖說多則

建設、土木、地盤

地盤

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

地盤、地質

建設、土木、地盤

		万国		A		B		C		D	
				全30巻		理科10巻		人文10巻		社会10巻	
品名	申込 内容										
	人										
	支 払 方 法										
冊数	送本日付	金 額		入金日付		金 額		金 額		備 要	
											16
											17
											18
											19
											20
											21
											22
											23
											24
											25
											26
											27
											28
											29
											30
											31
						謝礼台帳記入年月日					
						記事					

借入金
 西田共六郎
 貸入金
 十元

校長・館長・図書館主任他職名

申
年
月
日
込取
扱
部
別申
込
者
別申
受
注
込
内
容
目
録

全30巻

理10巻

人文10巻

社会10巻

1 本 人

通
本
方
法
支
払
方
法

2 紹 介

送本日付

金 額

入金日付

金 額

摘 要

書

名

冊数

送本日付

金 額

入金日付

金 額

摘 要

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

★
紹
介
者
欄氏
名住
所謝
礼
台
帳
記
入
年
月
日記
事

13.

24. 11. 21

~ 12. 28

以下31日迄迄

25. 1. 01

~ 04. 08. 09

以下2月中, 3月中

卒業の前後.

B

13

M.24. 11.21
~ 12.28

(31日付記す)

M.25. 1.01 ~ 04

(~03.09.以下付)

以下2月中3月中...と要約
本業の事

うきよたび